

国立国会図書館月報

稀本あれこれ-478-
「浅沼稻次郎読書ノート 思想の母」

- 1 未来のための図書館
世界図書館情報会議—第73回国際図書館連盟(IFLA)大会
- 4 第34回国立図書館長会議(CDNL) 電子図書館に向けて
の国立図書館の連携 =長尾 真
- 8 議会図書館分科会 議会図書館と調査サービスとの革新と創造性 =山口 広文
- 11 資料保存コア活動、資料保存分科会関連会議 共通の悩みに、固有の問題に、知恵を出し合う =小林 直子
- 15 書誌分科会とデジタルアーカイブに関するセッション
デジタル時代の全国書誌へ =中井 万知子
- 18 児童・ヤングアダルト図書館分科会
多様性を包み込むサービスをめざして =佐藤 尚子
- 21 ユネスコ・セッション 知識社会におけるユネスコと
IFLAの協力 =藤巻 正人
- 10, 14, 17, 22 南アフリカ点描
- 24 デジタルアーカイブの現状と課題—第48回科学技術関係資料
整備審議会の開催—
- 26 『国立国会図書館月報』読者アンケート結果報告
- 41 2007年全米州議会協議会年次大会に出席して =武田 美智代
-
- 23 館内スコープ
- 30 月例報告
- 30 国立国会図書館の編集・刊行物
- 28 NDL news
- 34 本屋にない本
- 51 『国立国会図書館月報』年間索引
- 52 本を魅せる 常設展示案内(27) 本の中の「おりがみ」

<お知らせ>

- 23 常設展示のお知らせ
- 31 関西館のマークができました
- 31 年末年始のサービス休止について
- 32 国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し「ヨーロッパセット」(小
学校低学年向/小学校高学年向)の貸出開始について
- 33 国際子ども図書館展示会「チェコへの扉—子どもの本の世界」開催に
ついて

12 2007

No. 561

国立国会図書館利用案内

東京本館 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331
利用案内 電話 03 (3506) 3300 (音声サービス)
電話 03 (3506) 3301 (FAXサービス)

関西館 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話 0774 (98) 1200 (音声サービス)
利用案内 電話 0774 (98) 1212 (FAXサービス)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>

利用できる人 満18歳以上の方

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

開館日 月曜日から土曜日

休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始 (31頁参照)、資料整理
休館日 (第3水曜日)

所蔵資料 当館の所蔵資料は、納本、購入、国際交換、寄贈等によって収
集され、東京本館、関西館、国際子ども図書館に分散して配
置されています。

<東京本館のおもな資料>和洋の図書、和雑誌、洋雑誌 (年刊誌、モノグラ
フシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

<関西館のおもな資料>和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語
資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省
科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

----- 東京本館のサービス時間 -----

開館時間 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00

※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。

資料請求時間 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00

※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古
典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。

即日複写受付 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00

後日複写受付 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

オンライン複写受付 月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30

----- 関西館のサービス時間 -----

開館時間 10:00～18:00 **即日複写受付** 10:00～17:00

資料請求時間 10:00～17:15 **後日複写受付** 10:00～17:45

セルフ複写受付 10:00～17:30 **オンライン複写受付** 10:00～17:00

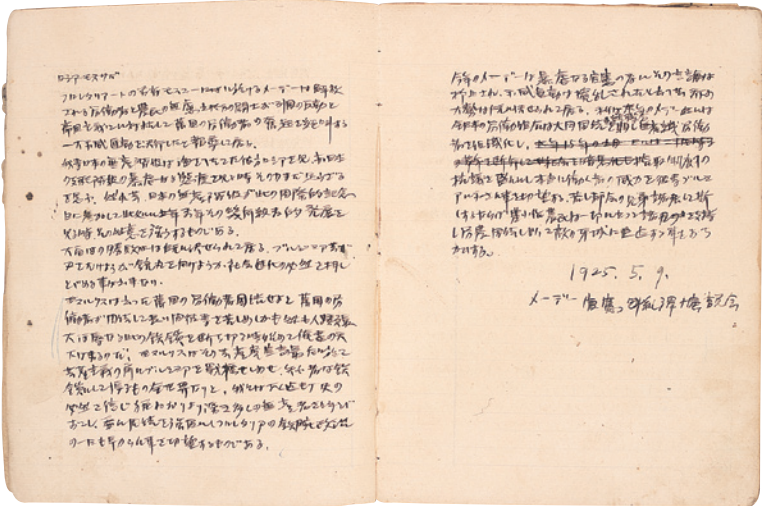
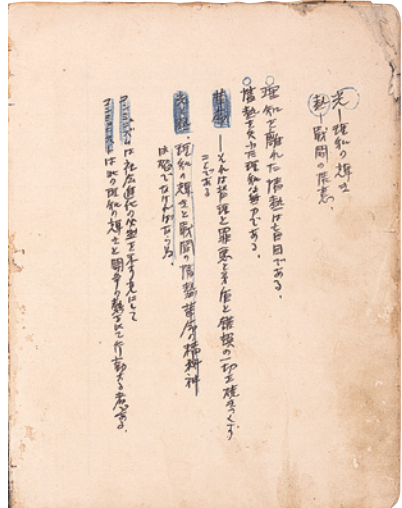
※詳しくは当館ホームページをご覧ください。

稀本おれこれ

(478)

「浅沼稻次郎読書ノート 思想の母」

憲政資料室収集文書（書類の部）1377



浅沼稻次郎読書ノート 思想の母

この資料は、大正から昭和にかけて活躍した政治家、浅沼稻次郎（1898-1960）のノートである。平成18（2006）年7月の七夕古書大入れ会において購入した。

浅沼稻次郎は、大正7（1918）年、政治家を志して早稲田大学に入学し「早大雄弁会」に所属、さらに学生団体「建設者同盟」を創立して、当時高まりを見せていた農民運動の支援活動を行った。卒業後は農民労働党・日本労農党・社会大衆党などの創立・運営に関わり、中間派無産政党運動の一翼を担った。戦後は日本社会党創立に参加し、組織局長・書記長として活動した。昭和35（1960）年には委員長に選任され、安保闘争を指導したが、同年10月12日、日比谷公会堂における三党首立会演説会の壇上で右翼の少年に刺殺された。大衆政治家として広く親しまれていた浅沼のために、その日のうちに大規模な抗議集会が開かれ、党葬の会場には数万人が集まったという。

このノートはその内容から、大正14（1925）年から昭和2（1927）年にかけてのものとして推測される。当時、浅沼は20代後半。普通選挙法の成立を背景として活発化した、無産政党運動に邁進していた頃である。記述には新進の経済学者、高橋亀吉の『経済学の実際知識』（1924）や、農業政策の大家、那須皓の『公正なる小作料』（1925）の要旨および感想を書き付けたり、組合運動史や小作料の歴史について整理したりといった自己研鑽の跡がみられる。また「労働階級は何をなすべきか」などの思索のメモや、大正13（1924）年に端を発する小作争議「伏石事件」に関する一文、第6回メーデーに際しての所感など、建設者同盟の機関誌『青年運動』への寄稿の基となった短文もある。「革命の精神は焔でなければならぬ」「俺の生活は現在幾分かダラケては居ないか、警戒しなくてはいけない」など、自らを鼓舞するような書き入れも散見される。

表紙には「思想の母」とタイトルがつけられ、さらに「思想は行動の母／情熱は行動の母」との書き込みがある。これは19世紀アメリカの思想家エマーソンの言葉「Thought is the seed of action」に基づくものであろうか。浅沼はかつて『建設者』（『青年運動』の前身誌）1923年4月号に「行動の青年」と題する一文を寄せ、「吾等は頭の青年であると共に行動の青年でなければならぬ」とも書いている。若さの意気込みが感じられる言葉であるとともに、「人間機関車」の異名が示すごとく、行動の人として生きた浅沼の生涯をも象徴するような言葉である。

東京本館憲政資料室では、総数3,000点以上にのぼる浅沼関係資料のコレクション、「浅沼稻次郎関係文書」を所蔵している。昭和38（1963）年に遺族の享子氏から寄贈を受けたもので、大正末期から浅沼が没するまでの無産政党・社会党関係書類、手帳、スクラップブック等からなる資料群である。ここで紹介したノートがどのような経緯で古書市場に出たかは定かでないが、「浅沼稻次郎関係文書」と併せて憲政資料室で公開されることとなったのは、幸運な巡り合わせといえよう。



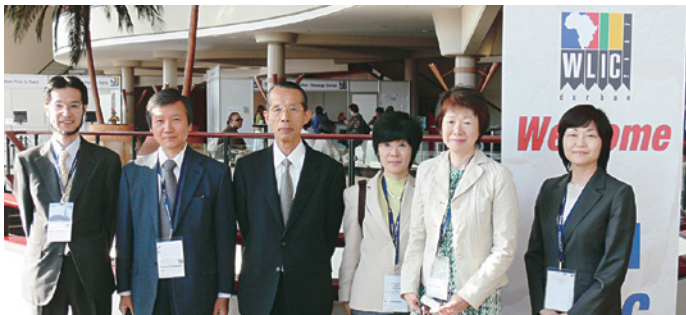
未来のための図書館 世界図書館情報会議―第73回国際図書館連盟（IFLA）大会

二〇〇七年の「世界図書館情報会議―第七三回国際図書館連盟（IFLA）大会」が八月一九日から二三日まで南アフリカ共和国のダーバンで開催された。大会のテーマは、「未来のための図書館―進歩・発見・協力」である。IFLAの年次総会がアフリカの地で開催されるのは、一九八四年のナイロビ（ケニア）大会以来であり、苦難の時代を乗り越えてきた南アフリカで開催される記念すべき会議となった。

開会式で国内委員会のティス委員長が万感の思いをこめて発表したように、会議の参加者は三千名に達した。最終発表では、三、〇一名（一日のみの参加、同伴者、展示会見学者を含む）が参加し、アフリカ諸国から一、六〇六名、そのうち南アフリカの参加者は一、二二二名にもなった。これは南アフリカ政府の支援によるところも大きい。参加国は一一八か国、米国からの参加者が四八八名で第二に多く、英国から二三一一名、中国から一二二名が参加し、前回の開催国である韓国からは八〇名程が参加した。日本の参加者は二七名であり、かなり少数派であったと言える。

当館からは、長尾真館長を団長として、山口広文調査及び立法考査局国土交通調査室主幹、中井万知子書誌部副部長、佐藤尚子関西館収集整理課長、小林直子収集部資料保存課課長補佐、藤巻正人主題情報部政治史料課主査の六名（下写真）が参加した。

ダーバンはクワズール・ナタール州に属し、インド洋に面した港と



して発展した都市で、海岸にはリゾートホテルが立ち並んでいる。会場は、町の中心にある広大な国際コンベンションセンター（前写真真上）であり、大小合わせて二一五の会合、展示会、ポスターセッション等ほとんどすべてのプログラムがここで運営された。

開会式

一九日の午前中に開会式が開催された。ステージにはIFLAの文字を記した巨大な赤い本が据えられ、子どもたちがその表紙を開くことで会議の開会が告げられた。スクリーン上の本のページには、次々に参加国の国旗が表示され、司会者が国名を紹介するたびに会場から拍手が湧き、特にアフリカ諸国の国名が呼ばれるたびに、大きな拍手と歓声があがった。

バーンIFLA会長等によるあいさつの後、南アフリカの憲法裁判所のサックス判事が基調講演を行い、人権活動家として何度も監禁された苦難の日々が、いかに読書によって支えられたかを語った。判事の意図を反映して憲法裁判所の中心部に新たに完成した図書館の映像が映し出されると、参加者は次々に立ち上がり、惜しみない拍手を送った。

いくつかの動き

今回の会議をめぐる特徴的な出来事を何点か挙げたい。

八月に入って、IFLA本部から、参加にあたって児童書を持参し寄付してほしいとの呼びかけがなされた。南アフリカの一一の公用語の児童書であることなどの条件が付されたが、会場にはブースが設けられ、多くの参加者が自国から持ち寄った児童書を寄贈していた。南アフリカでは、アパルトヘイト（人種隔離政策）の撤廃後も、当時十分な教育を受けられなかった人々の失業率が高く、治安の悪化も大きな問題となっている。その中で、子どもたちを未来の担い手として育てる図書館への、世界中から届けられたプレゼントだったと言えよう。

また、会期中、四つのIFLAの事務所の発足が発表された。二〇〇六年に閉鎖されたダカール（セネガル）に替わるアフリカ地域オフィスが、プレトリアの南アフリカ大学図書館に設置された。さらに、アラビア語を使用する図書館・情報機関のためのセンターがアレキサンドリア（エジプト）、アフリカのフランス語センターがダカール、そしてロシア語センターがモスクワの各協力機関に設置された。IFLAの公用語は二〇〇六年にアラビア語、中国語を加えて七言語となり、各言語による情報共有を促進することが課題になっていたが、今回、三つのセンターがアフリカに置かれたことになる。

一方で、IFLAの組織に関する意見聴取のセッションが開会式の直後に行われ、組織の見直しが論議された。現在、IFLAには八つの部会のもとに四七もの分科会が設

置され活動を行っているが、その複雑さ、事務的な煩雑さが組織を圧迫しているとして、部会を四つにまとめ、一定規模以下の分科会については統廃合するとの勧告が示された。危機感を持った小規模な分科会から反論が出るなど活発な論議が行われ、今後の動向が注目される。

評議会

最終日二三日の午後にIFFLAの最高議決機関である評議会が開催された。二〇〇五年からIFFLA会長を務めたオーストラリアのバーン氏が退任し、新会長にドイツのラックス氏が就任、図書館の重要性に関する主張の強化、地域コミュニティレベルの活動の重視等によって、IFFLAの影響力を強めていくとあいさつした。

動議として、物価値上げに対応し、二〇〇八年の会費を値上げする提案、また、IFFLAの資産運用の中立性を明確化するための決議案について投票が行われた。しかし、基準となる一〇九の議席のうち、定足数の過半数に充たない五一議席の出席しかなかったため、投票自体は賛成多数ではあったが正式決定とならず、後日改めて郵送投票が行われることになった。

閉会式

閉会式は二三日に開催され、退任するバーン会長ほか、役員交代が発表され、ポスターセッションの優秀賞な

ど各種の授賞式が行われた。二〇〇八年の開催地であるケベック(カナダ)のフォーク・デュエットがステージに立ち、イヌイットの民謡をルートとする曲を演奏すると、アフリカから北の大地へと、舞台が移りゆくことが感じられた。二〇一〇年の開催地は、オーストラリアのブリスベンに決定したことが発表された。そして、閉会式で開かれたIFFLAの赤い本が、国内委員会のティス委員長によって再度閉じられ、大会は閉幕した。

今大会の開催国である南アフリカの各都市は、外務省の情報でも十分注意すべしとの危険情報があり、ダーバン滞在中の行動範囲は基本的には会場内にとどめられ、気ままに町を探索するような冒険は自重するしかなかった。そのためというわけではないが、当館の参加者は関係する会合に集中して臨み、つづがなく出張を終えることができた。本号では、同時に行われた国立図書館長会議を含め、各メンバーが参加した会合について報告する。また、限られた経験ではあったとしても、私たちが見たダーバンと南アフリカについて点描してみたい。

1 二〇〇七年一〇月発行IFLA Express 8を参照。

<http://www.ifla.org/IV/ifla73/xpress8-en-2007.pdf>

2 プログラム、発表原稿の一部は左記を参照。

<http://www.ifla.org/IV/ifla73/index.htm>

(国立国会図書館IFFLAダーバン派遣団)

第34回国立図書館長会議 (CDNL) 電子図書館に向けての国立図書館の連携

長尾 真

例年IFLA大会に合わせて行われている国立図書館長会議(以下、CDNL)が、八月二日にダーバンで開催された。会場は、当初クワズール・ナタール大学が予定されていたが、最終的にIFLA大会のメイン会場である国際コンベンション・センターとなった。

参加者は、約六〇か国から国立図書館長またはその代理およびIFLA関係者等が参加した。今回は南アフリカでの開催ということもあり、アフリカからの一二か国の参加が際立っていた。また、アジアからも中国、韓国など日本を含め一か国の参加があった。

会議は議長のカーナビー氏(ニュージーランド国立図書館長)のあいさつで開会し、続いて南アフリカの芸術文化大臣の代理として南アフリカ国立図書館理事会会長ヌコンダ氏および南アフリカ国立図書館長ツェーベ氏から歓迎のあいさつがあった。特に今年は南アフリカ図書館情報協会(LIASA)創設一〇周年に当たるので、この記念の年にCDNLを開催できることに感謝の意が表明された。

おもな報告

●エジプト国立図書館・公文書館
ビデオによる同館の紹介があり、五万点のアラビア語資料をデジタル化していることが報告された。

●アフリカ諸国の国立図書館
南アフリカ国立図書館から、アフリカ内および欧米、アジア各国との図書館協力の状況が報告された。次いで、アンゴラ、レソト、マラウイ、ナイジェリア、スワジランドおよびウガンダの各国立図書館から、外国の財政支援で新館が建設された等の報告があった。

●CDNL/ICAB
S(書誌標準に関する



IFL A—CDN L同盟

ドイツ国立図書館長から、書誌の標準化、デジタル情報への取組みが課題であり、戦略的将来計画を来年のIFL Aで報告したい旨の説明があった。

●国立図書館分科会

バレント分科会長（カナダ国立図書館・文書館）から、デジタルに対応する全国書誌の新ガイドラインを二〇〇八年初めに制定する、また、国立図書館のための約三〇〇のパートナーズ指標について二〇〇七年末に投票を行うとの報告があった。

なお、当分科会が一九日に開催した公開セッションでは、国立図書館の将来をテーマとし、「新たな機関、新たな展望（カナダ）」、「相互接続する未来における国立図書館の経営―包括的レファレンスサービスおよびネットワークについての洞察（シンガポール）」、「ビヤホールおよび産科病棟から公共図書館へ（ケニア）」および「国際的ウェブアーカイビング―将来における相互運用性（デンマーク）」の四つの発表が行われた。

●CDN L地域組織

イペロ（ラテン）アメリカ国立図書館協会（ABIN I A）、アジア・オセアニア地域国立図書館長会議（CDN L A O）、東・中央・南アフリカ国立図書館・大学図書館会議（SCANUL E C S）、欧州国立図書館長会議（C E N L）から各々の活動について報告がなされ、その後、

エジプトからアラブ地域における図書館会議の設立について発表があった。

●IFL A

バーン会長から、IFL Aが行うべきこととして、知的所有権、表現の自由、戦争や災害から文化財を保護するためのブルーシールドについて関係機関と協力すること、U N I M A R Cの重要性、デジタル・ディバイドなどの格差の克服、財政的支援（ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの支援）等について報告がなされた。また、ラックス次期会長から、ユネスコとの協力、情報にアクセスすることの重要性について発言があった。

「CDN Lの将来的方向性」についての議論

ニュージーランドおよびシンガポールの国立図書館によるデジタル・コレクションの連携の事例が紹介された後、CDN Lの将来的な方向性に関して、次の課題が論議された。

- (1) CDN Lは、より広範囲の情報部門、公文書館、博物館、文化・出版機関との戦略的提携を強化すること。
- (2) CDN Lは、IFL Aと協力して、国連の世界情報社会サミット（W S I S）活動を支援し、世界的所有権機関（W I P O）に対して助言すること。
- (3) CDN Lのメンバーは、関連する部門およびIFL

Aのコア活動を通じ、IFLAと協力して、国立図書館のデジタル・コレクションを結びつける事業を策定・実行すること。

(4) CDNLは、そのメンバーによりまたメンバーのために、デジタル・ツール、製品、サービスの開発を促進すること。また、情報および資源を共有し、CDNLの活動に関する情報を広めるために、ウェブサイトおよびメーリングリストの利用を拡充すること。そして、これらの情報にすべての国立図書館がアクセスできるように奨励すること。

(5) CDNLは、欧州電子図書館(EDL)、欧州図書館(TEL)、世界電子図書館(WDL)などの電子図書館事業を進めている図書館に対し、二〇〇八年末までに技術的および政策的課題についての高度な報告書を提出するよう要請すること。

(6) CDNLは、地域組織と緊密な協議をして、戦略的優先行動計画を策定すること。



これらの課題に対して示された意見に次のものがある。

(1) については、デンマークから、国立図書館、公文書館、博物館、美術館が協力して文化遺産のデジタル化を行っているとの報告があった。ただし、CDNLの会議の場だけでなく、メール等を通じて連絡調整する必要があるというスウェーデンの意見に共感を示す国が多かったようである。

(2) については、日本(当館)から発言し、デジタルおよびウェブサイトの情報の収集を容易にするためにCDNLがWIP Oにアプローチすることが重要であることを指摘した。また、南アフリカ等から、各国の政府にアプローチする必要性、表現の自由のために声を一つにする必要性についての意見が表明された。

(3) については、国により異なる事情が示された。伝統的な図書館サービスが中心であり、デジタル化についてはもう少し時間が必要という国もあれば、フランスのように現在行っているデジタル化の検証を来年予定している国もある。た

だし、デジタル化の資金面の問題については複数の国から発言があり、やはり各国に共通する課題であると感じた。また、英国から、CDNLで各国のデジタル化の活動状況を共有したらどうかとの意見が出され、IFLA会長から、各国の国立図書館のコレクションをつなぐポータルができることが望ましいとの発言があった。

(6)については、日本から、以上のすべての議論で「何々すべし」と表現されているところは、あくまでも強制でなく勧告であると解すべきであると発言した。また、英国から、CDNLはいろいろな規模と異なった問題を抱えている図書館の集まりであり、このような形の会議では意見が集約できないので、分科会を作って議論し、最後に全体会議に分科会報告をするなどの運営方法を検討すべきではないかと発言があった。

以上で時間切れとなり、議論は終



了した。

今後の会議

カナダ国立図書館・公文書館のパレント氏から、二〇〇八年八月にカナダのケベックで行われるCDNLへの招待があった。

また、日本から、来年のCDNL A Oを東京で開催することを紹介した。

筆者は館長就任後初めての参加であったが、CDNLに参加している国立図書館の規模や課題は様々であり、一つにまとまっていくことは容易ではないと感じられた。しかし、各国の図書館長はじめ図書館関係者と意見交換ができ大変有意義であった。

* 「武力紛争の際の文化財の保護に関する条約（一九五四年ハーグ条約）」で指定された、武力紛争において攻撃を差し控えるべき文化遺産を示すための標章の通称

(ながお まこと 国立国会図書館長)

議会図書館分科会

議会図書館と調査サービスにおける革新と創造性

山口 広文

プレコンファレンス（ケープタウン）

議会のための図書館および調査サービス分科会（通称「議会図書館分科会」）は、伝統的にIFL A本大会の開会前に、プレコンファレンスを開催しており、今回は八月一五日から一七日までの三日間の日程であった。

南アフリカでは、国の三権の所在地が三都市に分かれ、議会はケープタウン、行政府はプレトリア、最高裁判所はブルームフォンテンに置かれている。プレコンファレンスは、ケープタウンの議事堂内で開催された（次頁写真）。なお、南アフリカ議会は二院制で、国民議会（National Assembly）と各州評議会（National Council of Provinces）とから構成され、日本と同様に、横長の議事堂の両翼を占めている。議会図書館はその中央部に位置している。

南アフリカは、かつては、悪名高いアパルトヘイト（人種隔離政策）をとる白人支配体制のもとにあったが、一九八〇年代後半からアパルトヘイトは徐々に撤廃され、一九九四年には一人一票の原則にもとづく人種間で平等な国政選挙が行われ、一九九六年には新たな憲法が制定された。以来新たな国の体制のもとで議会運営が進められており、議会図書館の役割への期待も大きいように感じら

れた。

第二三回目となる今回のプレコンファレンスの統一テーマは「議会図書館と調査サービスにおける革新と創造性」で、三九か国一一九名の参加者があった。

一五日午前中は、ムベテ国民議会議長の歓迎あいさつとディングニ事務総長の開会あいさつがあり、その後、議長の司会のもとで進行し、セノリ議員とクローニン議員から、議会図書館と調査サービスのあり方についてスピーチがあった。セノリ議員は、議会図書館に肝要なこととして、議員のニーズへの理解、サービス提供の柔軟性、第一級のサービス提供の三点を強調し、クローニン議員は、「新興の民主主義体制（emerging democracy）」における議会図書館と調査サービスの重要性について語った。

さらに、南アフリカ議会における議会図書館と調査サービスの現況について、議会スタッフから報告があった。特に、議会の役割が立法活動のみならず行政監視活動に重点を置く方向にシフトしつつあること、それに対する調査部門の対応の必要性が強調されていた。また、議会活動の基盤として、情報システムの整備状況について詳しい報告があった。その後、両院の本会議場と議会図書館を見学した。



翌一六日には、まず、各国議会図書館のイントラネットやウェブサイトの改善への取組みについて、次いでサービスマや運営の実情について報告があり、アフリカ諸国からはカメルーン、ナイジェリア、ガーナの現状について報告がなされた。その他の国の中では、米国議会図書館のマルホラン調査局長から、大学との提携

について、調査活動の拡充とともに、人材確保（職員採用）などにも有益である旨の報告があり、興味を引かれた。一七日は、国連のカシニ氏から、国連に設置された「議会におけるITのための世界センター」の活動について報告があり、アフリカ諸国の議会へのIT導入に対する協力活動が紹介された。その後、ヌトゥンジャ議会議長より閉会のあいさつがあった。午後は、ケープタウン港外のロベン島への見学ツアーが行われた（次頁「南アフリカ点描」参照）。

セッションおよびワークショップ（ダーバン）

本大会では、筆者は、議会議館分科会に加えて法律図書館分科会と政府図書館分科会に参加した。

議会議館分科会（二〇日）では、「議会議館と調査サービスマの構築・成長のための連携（partnering）」をテーマに五つの報告が行われた。このうち、カナダからの報告で

は、多岐にわたる国内外の外部機関との連携関係について具体的な状況が示された。また、ウガンダからは、議会議館のサービスマにおいて、国際機関や英国議会の図書館などとの連携関係が重要である旨の報告があった。さらに、チリからは、ネット上での市民の論議を議会の政策形成に役立てることを意図したウェブサイトによる一般市民との連携の試みなどが報告された。いずれについても、大変新鮮な印象を受けた。

法律図書館分科会（一九日）は、「民主主義と人権のための法律情報への自由なアクセス」をテーマとして開かれ、南アフリカにおける判例を含む法律情報の整備などについて報告があった。また、一二月にインドで開催される第二六回国際法律図書館協会研究集会への参加の呼びかけがなされた。

政府図書館分科会（二〇日）では、「多言語コレクションとサービスマ」がテーマで、南アフリカからは、公用語が英語を含む一一の言語であることへの対応について報告がなされた。

政府図書館分科会と議会議館分科会との合同分科会（二一日）においては、これまで検討が続けられてきた「政府図書館のためのガイドライン（案）」についての説明と質疑があり、一〇月一日までコメントを受け付けた後、二〇〇八年春頃までにガイドラインを策定することとされた。この「政府図書館」には、議会議館や裁判所図

書館も含まれているが、議会図書館と行政府の政府図書館とは異なる事情があり、一律に扱う難しさと独自のガイドラインの必要性を指摘する意見が、議会図書館分科会側から出された。

二二日には、議会図書館分科会のワークショップが開催された。「議会図書館における電子ジャーナル」、「発展途上国議会図書館における電子情報源」、「来期テーマ」、「新規サービス」、「サービス提供」の五テーマに分かれて、自由討議形式で情報交換・意見交換がなされた。「サービス提供」のワークショップでは、二〇名程のメンバーで、急な調査依頼が重なったとき依頼者にどう対応しているか、一般公衆へのサービスはどの範囲で行っているかなど、諸々の具体的な局面に対して、各々の実情を紹介し合った。

会期中には議会図書館分科会の常任委員会が開かれ、分科会議長が、シーダー氏（米国議会図書館）からサンドグリンズ氏（ノルウェー議会図書館）に交代することが決まった。

このように、プレコンファレンス、セッション、ワークショップを通して、世界の議会図書館界の近況に触れるとともに、これまで知る機会が少なかったアフリカの議会図書館の状況について情報を得る良い機会となった。

次回の議会図書館分科会のプレコンファレンスは、本大会に先立ちカナダの首都オタワで行われる予定である。

（やまぐち ひろふみ）

調査及び立法考査局国土交通調査室（主幹）

南アフリカ点描

世界遺産・ロベン島博物館

議会図書館分科会・プレコンファレンスの最終日、ケープタウン港外に浮かぶロベン島の見学が行われた。ロベン島には、かつては刑務所が置かれ、ネルソン・マンデラ前大統領（1994年～1999年在任）など、アパルトヘイトに反対する政治活動家が多数収容されていた。刑務所廃止後、1997年からは博物館として公開され、



1999年には世界遺産に登録されている。元囚人のガイドによる熱のこもった説明を聞きつつ、自由と平等への苦難に満ちたこの国の歴史を実感した。同時に、かつて日本にも、信仰や政治的主張が故に、拘束され苦役を強いられた多くの人々がいたことを思い起こさずにはいられなかった。

（山口）



資料保存コア活動、資料保存分科会関連会議

共通の悩みに、固有の問題に、知恵を出し合う

小林 直子

ブレコンファレンス「ホコリ・虫・カビと闘う」

資料保存コア活動と、資料保存、新聞、貴重書・写本の三つの分科会の共催によるこのブレコンファレンス（以下、ブレコン）は、アフリカで資料保存に携わる人々に役立つ実践的な会合にしたいとの趣旨で、必要度のレベルは異なってもあらゆる資料保存機関で取り組むべき問題である「ホコリ・虫・カビ」をテーマに選んだ。資料保存コア活動南部アフリカ地域センター長兼資料保存分科会連絡委員のマレ氏（ケープタウン大学図書館）が中心となって企画し、ホコリ・虫・カビそれぞれの専門家を講師とする講義とアフリカ大陸内外からのケース紹介を組み合わせた形で、

ダーバン郊外のリバーサイドホテルを会場として八月一四日～一六日に行われた。

「ホコリ」は、英国ナショナルトラストで環境管理等の予防的保存を統括しているロイド氏が担当した。講師は博物館におけるホコリの測定調査について講義し、参加者は実際に調査キットで採取された様々なホコリのサンプルを実見した（写真）。ホコ

リはカビや害虫の温床となるが、それ自体が資料を害するわけではなく、清掃頻度の増加要求などに財政的理解を得にくいのが、資料保存担当者にとって悩ましいところである。「ホコリも科学的に測定でき、保存対策の根拠にできる」という事実は、参加者一同にとって新鮮な驚きであった。

「虫」については、英国の昆虫学者ピニンジャ氏から、できるだけ薬剤に頼らずに虫害を抑止する手法（IPM）の講義を受け、講師持参の虫損資料と害虫サンプルで「加害虫」を推理する実習も行った。実習では、ネズミにかじられた本、シロアリの糞、コイガのサナギなど、筆者が初めて見るものも多く、この種の被害の経験者である南アの参加者仲間に助けられながら苦労して実習を終えた。

「カビ」は、米国議会図書館の貴重書の保存修復責任者オコナー氏が担当し、カビそのものの知識や除去方法よりも、図書館でカビ被害が発見された場合にどう対応するか、といった管理運営面に重点が置かれた。カビ発見時にまですべきことは種類の同定ではなく「湿度を下げること」、カビ被害の広報では何を失ったかではなく「何を救ったかを語れ」など、図書館員に役立つ実践情報満載の講義であった。誌面の都合で詳しく紹介できないが、全講義資料は、



後日IFLANETに掲載される予定なので、それを待たれたい(掲載URL未定)。

参加者は六〇名弱で、七割が南アの図書館・文書館・博物館等から、残りが主催者団体の関係者。筆者は資料保存分科会常任委員会委員として参加した。ダーバン地域は治安が悪いため、参加者はホテルに缶詰めで寝食を共にし、会議時間以外にも互いの悩みを話し合い知恵を求めあう、さながら「資料保存合宿」のような二泊三日であった。

資料保存関連オープンセッション

大会期間中には、資料保存コア活動(二〇日午前)、資料保存分科会(二二日午後)のオープンセッションが開催された。どちらもアフリカに焦点を当てたプログラムで、アフリカ大陸にある貴重なコレクションを保存する様々な活動が報告された。コア活動の方は特に録音映像資料と口承伝承の保存に焦点を当てたセッションで、デジタル化による保存の事例が多く紹介された。多くのアフリカ諸国は植民地であったため、いわゆる地元の歴史資料や抵抗運動の記録などが公式に引き継がれておらず、保存の技術・手法の問題以前に「保存したいものを入手する苦勞」が語られたことが印象深かった。このほか、アジア・オセアニア

分科会のセッション(二二日午後)では、ニュージールランド国立図書館による被災資料の復旧処置サービスの運営に関する興味深い事例報告があった。

資料保存コア活動センター長会議

資料保存コア活動は、世界各地の国立図書館等に置かれた一二のセンター(国際センターおよび一一の地域センター)が核となつて資料の保存のための世界的な協力に取り組む活動体であり、センター長は、保存政策を扱う役職者である(後述の資料保存分科会常任委員会は資料保存の専門家(個人)の集まり)。二一日午後に開かれたセンター長会議には、日本からは、坂本博アジア地域センター長(収集部司書監)と筆者が出席した。センター長は一二名中七名(代理も含む)と、集まりはよいとは言えなかったが、出席した各センター長から活動報告があった。

バリラ国際センター長(フランス国立図書館)からは、「他の国際会議を利用して、可能な限りセンター長同士が直接会って話し合う機会を作りたい。」との提案があり、出席者の大方の賛同が得られた。

さしあたりアジア地域センターが参加を求められるのは、来春シンガポールで開催予定のIFLANA国際新聞会議となる。各センターが互いの活動を参考にしつつ、担当地域における保存協力活動を進めていくためには、やはり実際に会って情報交換することが何よりである。

資料保存分科会常任委員会

大会期間直前直後の八月一八日、二四日には常任委員会が開かれて十数人の委員が集まり、資料保存コア活動の国際センター長もオブザーバーとして参加した。今回は役員改選期にあたり、委員長は二期四年務めたグウィン氏（スミソニアン図書館・下写真右）から事務局長だったクルヘド氏（ウプサラ大学図書館・下写真左）に、事務局長がクルヘド氏からウエルハイザ氏（トロント公共図書館）に交代した。なお、グウィン氏は、新たにIFLA専門委員会の委員長となった。

委員会では、主にIFLA年次大会のオープンセッション等の企画を話し合う。時宜を得たテーマと魅力的な講師を選べば多くの参加者を得て広く資料保存活動を促進する契機となるため、常任委員は日頃からアンテナを張ってテーマを探している。実は、年次大会では講師の招へい費用が出ないので、講師自身が旅費等を負担しなければならぬ。そのため、会合のテーマに最適の講師の参加が得られないこともある。今回のプレコンは、ALP（途上国の図書館振興を目的としたIFLAのコア活動）からの援助が得られたため、テーマに即した第一人者を遠方から呼ぶことができたが、これは幸運な例外である。この問題は大会全体に関わることだと意見が一致し、委員長からIFLA上層部に伝えることになった。

今回のケベック大会では、IT分科会と共催で「ボーンデジタル資料の保存」をテーマにオープンセッションを行う。電子情報保存の政策的な課題を扱うセッションと、パッケージ系電子出版物の具体的な保存対策に関するセッションの二本立てとすることになったが、発表者はこの時点では決まらなかった。当館からの貢献可能性もありそうなので、その後館内の関係部署と検討を始めている。直近では来年三月にスイスでの中間会議（年次大会以外の時期に行う分科会の会合）、また次回大会の直前にはカナダ国立図書館・文書館と共催のプレコンも計画されている。

常任委員会では個人の専門家と、センター長会議では国立図書館の保存管理者と、そしてプレコンでは図書館以外で保存に携わる人々とも意見を交わし、そのどれもが自分の仕事の糧となった。直接会って情報や経験を分かち合うことで互いの活動がより豊かになる、という実感が得られた貴重な体験であった。

（こ）ばやしなおこ
収集部資料保存課課長補佐





南アフリカ点描

ダーバンお土産事情

アパルトヘイト撤廃から10年以上経つが、社会のひずみはそう簡単に修復されるものではないらしい。地元では失業率が40%といわれ、強盗やひったくりが日常茶飯事だとも聞いた。

IFLAの外国人参加者もあらゆる機会に一ホテルのフロント係に、送迎バスのドライバーに、地元の参加者に「昼間でも決して外を歩いてはいけない」と注意された。大会会場と市内主要ホテルとの間をIFLA送迎バスが結び、参加者はそれで移動するしかなく、空き時間に街に出て土産物を探したり、地元の食を楽しんだりする自由はない。

とはいえ、遠い異国に仕事に来て、家族や同僚にお土産を求めたいのは人情である。そこで用意されたのが、展示会場内土産物コーナー。各国の図書館や書店、情報関連企業のブースが軒を連ねる広い場内に数箇所、こんな土産物屋が点在している。鮮やかなビーズ細工を品定めする参加者の目は真剣そのもの！
(小林)



図書館車プロジェクト SAPESI

南アフリカでは、10万キロ走った車も十分現役として活躍している。日本で務めを終えた図書館車を送ってもらい、役立てられないか？との発想が、SAPESI (South African Primary Education Support Initiative) の活動として実を結んだ。2006年に南アのNPOとして活動を開始し、現在、20台の図書館車(写真)が4つの州の学校等を巡回している。車には司書が乗り込み、先生に本を貸し出し、生徒への指導方法をアドバイスする。初等教育がようやく根付いてきた南アで、本と子どもたちを最初に結びつける有効な手段である。



18日の夕刻、SAPESIの蓮沼代表、日名さん、武藤さんとの交流会が企画され、日本からのIFLA参加者総勢20名が出席した。熱いプレゼンと現地で安全に過ごすための親切なアドバイスに深く感謝する。
(中井)

書誌分科会とデジタルアーカイブに関するセッション デジタル時代の全国書誌へ

中井 万知子

今回の参加には主に三つの使命があった。当館の常任委員の代理として書誌分科会常任委員会に出席すること、本会議で開かれる書誌情報に関連するセッションになるべく多く参加すること、そして、急遽プログラムに追加されたデジタルアーカイブと保存のアップデートセッションで、当館のデジタルアーカイブの現況についてプレゼンテーションを行うことである。

書誌分科会常任委員会

書誌分科会は書誌調整部会（第四部会）に属し、特に全国書誌の改善や標準化に注力している分科会である。八月一日および二四日に常任委員会が開催された。

目下のテーマは、電子的全国書誌ワーキンググループが取り組んでいる「デジタル時代の全国書誌ガイドライン」の策定である。収録対象、その発行形態ともどもデジタルとなっていく全国書誌について、意義、選択基準、書誌データのレベル、出版者との協力、作成指針、電子的な提供の要件等の指針を提示することを目的とする。本大会の会期中もグループの討議が行われ、二〇〇七年中に常任委員会

で草案を固め、二〇〇八年前半に世界レビューを経て完成させるとの日程が示された。

また、アフリカの全国書誌をテーマとした分科会のオープンセッションが成功裡に終了し、事前に行ったアフリカ各国立図書館の調査結果も公表された。なお、今回、議長の改選があり、ウイギンズ氏（米国議会図書館。以下、LC）が議長に、ルポヴィチ氏（フランス国立図書館）が事務局長に就任した。書誌調整部会においても部会長がティレット氏（LC）から、ダンドリー氏（スイス国立図書館）に交替した。

書誌関係のオープンセッション

書誌調整部会およびその四つの分科会（書誌、目録、分類・索引および知識マネジメント）のほかに、国立図書館、書誌、分類・索引の三分科会合同の「デジタル時代の全国書誌再考」と題するセッション、ICABS（書誌標準に関するIFLA-CDNL同盟）のセッションもあり、書誌関係では七つのセッションに参加した。

また、昨年ソウルで開催された第四回IFLA目録専門



出版を記念して、左から顧氏（中国国家図書館）、ティレット氏（LC）、イ氏（韓国国立中央図書館）、筆者。


家会議の成果が、「IFLA目録原則―国際目録規則に向けて4」として八月に出版されたため、その発表があった出版分科会セッションにも出席した（写真）。本書は、英・中・日・韓の四か国語の翻訳が併記されており、日本語訳は、当館書誌部が窓口となつて、国内の専門家に

も協力をいただいでまとめたものである。以上のセッションについては、当館ホームページ掲載の「NDL書誌情報ニュースレター」第二号に紹介している。（http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/index.html）

デジタルアーカイブと保存のアップデートセッション

七月に、オーストラリア国立図書館およびオランダ国立図書館から、非公式セッション参加への呼びかけが、IF

報告資料から



LAのメーリングリストを通じて行われた。デジタルコレクションの運営に関心を持つ図書館が情報交換をするセッションを八月二日に開催するので、プレゼンテーションを希望する図書館は申し込んでほしいとの誘いであった。電子図書館事業を推進中である当館もプレゼンターとして名乗りを上げ、「国立国会図書館のデジタルアーカイブ事業の現状」と題する報告を行った。全二二機関（次頁表）が、

一〇分間ずつそれぞれの取組みを報告、午後一時半から五時までの長時間のセッションであったが、常時七、八〇名の参加者があり、さまざまな機関のアーカイブの現在を知るよい機会となった。司会のヴェインハーデン氏（オランダ）とギャテンビー氏（オーストラリア）は、デジタル情報の保存の

発表機関（発表順）

南アフリカ国立図書館
 英国図書館
 カナダ図書館・公文書館
 ドイツ国立図書館
 チェコ国立図書館
 オランダ国立図書館
 エジプト国立図書館・公文書館
 スウェーデン国立図書館
 オーストラリア国立図書館
 英国王立盲人協会
 国立国会図書館
 米国議会図書館

システムを開発していることから、開発・調達段階であると申請した。しかし、保存用のシステムを運用し、複数の長期保存プロジェクトを進めているオランダ、英国、米国といった国々に追いつくためにはまだ道のりがある。着実に経験を積み重ねていくことが重要であろう。

（なかい まちこ 書誌部副部長）

発達段階を、調査、状況精査、実験、プロトタイプ作成、開発・調達、実装、実運用の七つの段階に区分し、報告者はプレゼンテーション終了後に自分たちがどの段階にあるのかを自己申請した。当館の場合には、平成二一年度の稼働を目標としてデジタルアーカイブ

南アフリカ点描

ズールー族の人たち

開会式会場入口では、民族衣装を身につけたズールー族の人たちが私たちを迎えてくれた。ダーバンのあるクワズール・ナタール州は、かつてズールー王国があった地域である。大会期間中、IFLAの主催によりダーバン郊外の見晴らしがよい丘の上でズールー族の生活の紹介、踊りの披露があった。楯や槍を振りかざし土埃を舞い上げての踊りはとても迫力があり、かつて強力な軍事を誇っていた民族だということを改めて実感した。（藤巻）



児童・ヤングアダルト図書館分科会 多様性を包み込むサービスをめざして

佐藤 尚子

筆者は、児童・ヤングアダルト図書館分科会の常任委員会委員として、同常任委員会および関連オープンセッション等に出席した。

常任委員会

今年役員改選期にあたり、委員会に先立って行われた投票において、委員長にはボン氏（オランダ）、事務局長にはキニヨーンズ氏（フランス）が満場一致で承認された。前委員長のストリセビツチ氏（クロアチア）は読書分科会の委員長に就任した。

委員会は、八月一八日、二二日（臨時）、二四日の三回開催された。おもな話題等は次のとおりである。

（一）多文化社会図書館サービス分科会、読書分科会との共催により、「すべての人のための革新的な多文化サービス」をテーマとしてサテライトミーティング（八月一五日～一七日 プレトリア）が開催された。日本からの報告者である渡辺有理子氏（東京学芸大学附属国際中等教育学校学校司書）やそのほかの発表ペーパーは、同会議のウェブサイトに (<https://lib.tut.ac.za/ifa/>) で見る事ができる。

（二）乳幼児サービスガイドラインが完成し（英・仏・西・露の各国語版）IFLAプロフェッショナルレポートとし

て発表された。

（三）ヤングアダルトサービスガイドラインの改訂については、二二日の臨時常任委員会で内容の検討を行った。ケベック大会のプレコンファレンスで発表の予定である。

（四）インターネットと児童図書館サービス声明の草案の検討では、フィルタリングの問題を中心に、チャット、ゲームの許可、使用時間制限についてなどの活発な議論があった。読書分科会、理事会でも議論され、第二稿はミッドイヤー・ミーティング（二〇〇八年三月コペンハーゲンで開催）で検討される予定である。

（五）「児童青少年図書館におけるリテラシー・トレーニング」の改訂三版について検討した。これは、児童・ヤングアダルト図書館分科会の戦略計画に盛り込まれることになっている。

（六）その他、リンドグレーン記念文学賞への推薦、覚書に基づく国際児童図書評議会（IBBY）・国際読書協会（IRA）との協力、ポロニーヤ国際児童図書展、韓国国立子供青少年図書館の開館一周年記念行事等への参加などについての報告があった。



オープンセッション

児童・ヤングアダルト図書館分科会は、単独での開催のほか、多文化社会図書館サービ的分科会、盲人図書館分科会とも共催でオープンセッションを行った。通常行われる図書館見学会が開かれず、地元の図書館での児童サービスの実際を見ることはできなかつたが、セッションの中で様々な切り口から児童サービスを考えることのできる、充実したプログラムであった。

●五周年を迎えた国際児童デジタル図書館（ICDL）

ICDLが今年で五周年を迎えるのを記念して、「児童書を通して世界の豊かさと多様性を学び理解する」というセッションが二〇日に開催された。このサイトでは、現

在世界五〇か国の四二言語による約二千冊の児童書が電子化されており、一四言語のインタフェースで検索し本の内容を見ることができ。この事業の中核を担ってきたウイークス教授（米国メリーランド大学 写真）による講演に続き、世界各地の学校や図書館でのICDLを使った実践が報告された。特に、ノルウェー、クロアチアなどからの映像を交えての紹介が好評であった。

●図書館における多言語家族への多言語サービス

二一日には、多文化社会図書館サービ的分科会と共催したセッションが開催された。読書による認知発達・学習達成、母語の重要性についての講演やノルウェーのバイリンガル家族のための図書館サービスプロジェクト、南アフリカの多文化・多言語コミュニティにおける児童サービスなどの実践報告があった。

今大会で数少ない日本からの発表として、依田和子氏（よこはまライブラリーフレンド）は、「日本における多言語サービスの推進」と題して、日本における多文化サービスの歴史、児童書のナショナルセンターとして国際理解の促進を設立趣旨とする国立国会図書館国際子ども図書館の活動、同館の豊富な外国語児童書を展示などに利用する神奈川県川島のNGOの多文化サービスの活動などを紹介した。

●ソーシヤル・インクルージョン

二二日には、公共・学校図書館部会により、公共図書館はいかに全住民に手を差し伸べてサービスするという課題に取り組みかというテーマでセッションが行われた。オーピングのバーンIFLA会長による社会的多様性への図書館の対応についての講演の後、①民主主義とソーシヤル・インクルージョン、②情報格差の架け橋、③読む権利、④すべての人のための図書館の四つのパートに分けられ、二〇の発表が行われた。「読む権利」パート（次頁上写真）の冒頭において、ストーリーピッチ前委員長から新しく作成

した乳幼児サービスガイドラインについての発表が行われた。

乳幼児（〇歳児から三歳児まで）とその保護者等を対象としたサービスの必要性と目標が述べられたこのガイドラインは、児童の権利に関する条約の「児童の人格、才能並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限度まで発達させる」（第二十九条）という目標のため、第三部会（七分科会）全体の協力のもとに刊行された。



児童図書館には、子どもに積極的な社会参加を促す役割がある。社会参加に必要な識字能力、生涯を通じて学習する能力、コミュニケーション力などの能力は、早期の子どもの家庭や環境に根ざしている。脳の発達に関する研究によると、幼いうちに読み聞かせ（音読）などで言葉や韻文、音楽や動きを体験することは、子どもの将来に大きな影響を与えることがわかっている。

居心地のよい環境で、幼児を膝に乗せての読み聞かせ、手遊び、わらべ歌などのプログラムを提供したり、保育者に子育てなどの情報を提供することは、図書館にとって非常に重要な任務である。

氏は、以上のように乳幼児サービスの意義などについて述べた。

●印刷字の読めない子どもへのサービスの優良事例

盲人図書館分科会との共催の二三日のセッションでは、クロアチアの公共図書館における様々な形態の資料を用いたサービスの実践、著作権法改正により原作の改変が可能となったスウェーデンでの「さわる絵本」製作、インドにおける視覚障害者のための開発志向型図書館サービス、イギリスにおける視覚障害の幼児のための「さわる絵本」（下写真）貸出用コレクションの構築についての報告が行われた。



全セッションにわたり、地元アフリカの児童サービスへの熱意と、そのサービスを通じてアフリカなどの開発途上国へ手を差し伸べようとする欧米諸国の姿勢が感じられる大会であった。

ケベック大会では、運営経費や蔵書構築、人的資源など児童サービスにおける様々な問題への対応をテーマとしてオープンセッションを開催し、乳幼児サービスガイドラインを中心としたオフサイト・プログラムが組まれる予定である。また、モントリオールにおいて、ヤングアダルト・サービスについてのサテライト・ミーティングが公共図書館分科会、経営・マーケティング分科会等との協力で開催されることになっている。

(中略) なお、() 関西館収集整理課長

ユネスコ・セツション

知識社会におけるユネスコとIFLLAの協力

藤巻 正人

開会式が行われた八月一九日の午後、ラックスIFLLA次期会長の司会により「図書館と知識社会」と題してユネスコのセツションが行われた。約一二〇名の参加があった。

初めに、ユネスコのカーン事務局長補（コミユニケーション・インフォメーション担当）から、「知識社会の構築」について発表が行われ、情報の蓄積である知識の重要性が示された。知識によって、繁栄がもたらされる一方、無知によって、貧困から抜け出せない社会となる。それゆえ、知識は、保存、普及、そして活用されなければならないことが強調された。

引き続き、カーン氏からユネスコとIFLLAとの協力関係について報告がなされた。国連世界情報社会サミット（WSSIS）に関して、二〇〇三年一二月にジュネーブで採択された行動計画の実現のために協力している。また、電子図書館に関しては、ユニヴァーサル・アクセスの向上、文化的・言語的多様性を有するコンテンツの増進、ローカル・コンテンツの国際的利用を促進するために協力していく。他方、電子図書館の課題としては、インフラの持続可能性、多言語主義、運営方法、資金調達、知的所有権、メタデータ、長期的保存などがある。さらに、図書館のための標準・ガイドラインの開発・出版、図書館員研修プログラムの提供

などでも協力を行っている。そして、保存に関しては、「世界の記憶（Memory of the World）」事業および「デジタル遺産の保存に関する憲章」が紹介された。ユネスコのホームページによると、「世界の記憶」には、一七八九年の人權宣言、バラモン教の聖典リグ・ヴェーダ、各国の歴史的文書類など、約七〇か国からおよそ一六〇のコレクションが現在登録されている。

カーン氏の報告の後、バーンIFLLA会長から、WSSISなどに対するIFLLAとユネスコとの協力が紹介された。また、ラックス氏からは、情報社会に対するユネスコのさらなる貢献を期待する発言があった。

なお、大会後の一〇月一七日、パリのユネスコ本部において、ユネスコと米国議会図書館が共同で世界電子図書館（WDL）を設立することに合意したことが発表された。WDLにはIFLLAも企画段階から関わっている。

長尾館長は、この大会に先立ち八月一六日から一七日にかけてパリのユネスコ本部を訪問し、松浦晃一郎事務局長、カーン氏らとWDL、「世界の記憶」などについて懇談した。ユネスコとIFLLA、図書館界との関係の深さを再認識したセツションであった。

（ふじまき まこと） 主題情報部政治史料課主査



南アフリカ点描



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

シティーホールの市立図書館

外に出られるのは、ホテルと会議場の往復と、せいぜいレセプション会場への送迎の護送バス、という「かごの鳥」状態。図書館見学も、出席するセッションとの折り合いがつかなくて申込みもできず…。

でもせっかくこんな遠い国までやってきて、図書館を見ずに帰るなんて！と、明日帰国という日の午後、やっと街までくり出しました。

あれ？でもどこかで見たような建物…。そうでした。ここは大会行事のカルチュラル・ガーラ（文化的催し）が開催されたシティーホール。英国植民地時代の面影を残すモダンルネッサンス様式の建物の、その1階に市立図書館があるのです。

2階にはダーバン自然科学博物館（写真1）、3階にはダーバン美術館が同居しています。まず、実物大？のティラノザウルスの模型が見下ろす博物館と、近現代の絵画・彫刻などが飾られた美術館を鑑賞（無料）した後、1階の図書館（写真2、3）へ。

ここは大規模な貸出図書館で、英語、アフリカンス語、ズールー語などの約40万冊の図書や音楽CD、DVDなどを所蔵しているそう。平日は10時～17時、土曜日は8時半～13時に開館。特に案内をお願いしたわけではなかったのですが、インド系と思われる男性の司書が、私たちが日本から来たたと知ると、「日本についてのとてもよい本がある。」と、一生懸命探してくれました。ジュニアコーナー（写真4）の方に移動していた私たちを追いかけてきて見せてくれたその本は『瀬戸内海の魚』。日本の家族の三世を描いたものだそうで、残念ながら知らない本でしたが、こんな遠い国でも本を通じて日本とつながっているのだなぁ、という思いがこみ上げてきました。（佐藤）

支部図書館・協力課協力係は、担当補佐を含めて六人の係です。国内外の図書館との協力に関する企画・調整の事務、外国からのお客様の接遇、外国語による広報等を担当しています。

その実体は：時には会議の準備を受け持つイベントプランナー、時には会場設営のために額に汗して肉体労働に励むガテン系、時には外国のお客様に館内を案内するガイド、時にはお招きしたお客様の旅行日程をアレンジする旅行社、時には英文パンフレットやホームページ掲載記事を英訳する翻訳家、時には英文広報誌の編集者：一人何役も掛け持ちしながら慌しく過ごしています。

I F L A に関することも協力係の業務です。巻頭で紹介したターバン大会においても、代表団参加の陰に、協力係の苦労の日々がありました。

I F L A 大会では、会議の概要をまとめた資料作成、参加登録、現地情報の収集、発表原稿の英訳のお手伝い、I F L A のサイトやニューズレター等による会議情報の収集等様々な仕事が発生します。また、他の国から



の参加者との懇談の場を設定することもあります。一見単純なこれらの仕事は、実は案外一筋縄ではいかない曲者なのです。

たとえば参加登録は、必要な情報を記入した申込用紙を事務局あてにファクシミリで送信すれば登録完了：と言いたいところですが、さにあらず。海外の事務局との連絡で思ったように事が進まず、何度も何度も同じようなやりとりを繰り返してしまいました。もはやファクシミリや電子メールではらちがあかず、電話での直接交渉に及び、英語で丁丁発止のやり取りを繰り返す、どうなることかと気を揉む日々もありました。様々な通信手段による

幾度にも渡る交渉の結果、やっと正しく参加者登録されたことが確認できたときには、一同ほっと胸をなでおろしたものです。色々なことがありましたが、終わりよければすべてよし。ターバン大会が成功裏に終了したことを喜びつつ、二〇〇八年ケベック大会の準備に既に走り出しています。

(支部図書館・協力課協力係 目印はバグ)

常設展示のお知らせ

第一五二回 本の中の「おりがみ」

平成一九年二月二〇日(木)から

平成二〇年二月一九日(火)まで

於 本館二階第一閲覧室前(東京本館)



詳細は本誌五六〇号または当館ホームページをご覧ください。ホームページでは、「ギャラリー」のなかにある「常設展示」のコーナーに、展示資料一覧と簡単な解説文を掲載しています。

(<http://www.ndl.go.jp/gallery/permanent/index.html>)

巻末にこの展示会に関連したコラム「本を魅せる常設展示案内」があります。

デジタルアーカイブの現状と課題

—第48回科学技術関係資料整備審議会の開催—



平成一九年九月二六日、国立国会図書館（東京本館）において、第四八回科学技術関係資料整備審議会が、審議会委員九名の出席のもとに開催された。今回から新たに、九州大学理事・副学長の有川節夫氏が委員に就任した。当館からは、長尾真館長、生原至剛副館長ほか一四名が出席した。

長尾館長のあいさつに続き、委員長長の選出が行われ、有川委員が委員長に選出された。また、委員長から、委員長代理として名和小太郎委員が指名された。

続いて当館から「デジタルアーカイブ事業の現状と課題―科学技術情報の流通・蓄積の視点から―」について報告し、懇談を行った。

デジタルアーカイブ事業の現状と課題

事業の目的および進捗状況と、その要であるインターネット情報（ネットワーク系電子出版物）収集の方向性について報告した後、想定される論点を課題として提示した。大別すると、当館が収集・保存すべきデジタルコンテンツの範囲と優先順位、関係機関との役割（機能）分担のあり方、著作権処理（権利許諾）の円滑化の三点である。

報告を受けて、委員から次のような意見が出された。

・すべてのインターネット情報を国立国会図書館が網羅的に収集・提供すると、他機関の電子情報を作成・提供する姿

第48回科学技術関係資料整備審議会出席委員

<委員長>

有川 節夫 九州大学理事・副学長*



有川節夫委員長

<委員>

朝倉 均 国際医学情報センター理事長
沖村 憲樹 科学技術振興機構理事長
倉田 敬子 慶應義塾大学文学部教授
坂内 正夫 情報・システム研究機構国立情報学研究所長
塚原 修一 国立教育政策研究所高等教育研究部長
土屋 俊 千葉大学文学部教授
名和 小太郎 情報セキュリティ大学院大学特別研究員
藤木 完治 文部科学省大臣官房審議官

(以上敬称略、50音順、*は新任)

勢に影響するのではないかと。各機関の姿勢を尊重する協調型の仕組みが望ましい。

・アーカイブ実施機関が存続しなくなった場合などに、国立国会図書館にデータ移管する制度も考えられるのではないかと。
・インターネット情報は、現時点では雑多なものでも、長期的には文化的価値が出てくることから、収集・保存は必要である。

・長期保存を、単独ではなく他国・他機関と連携して行う方法もある。役割分担について検討を深めるべき。

・デジタルアーカイブは、費用がかかる割には短期的成果が上がりやすく、予算化が難しい。国立国会図書館には、日本全体として、アーカイブすべきものの設計図を描くこと、そのための国全体の予算枠の確保を期待している。

・国全体のデジタルアーカイブは、特定機関で実施するには規模が膨大である。

これらの意見を、今後の当館のデジタルアーカイブ事業の検討に活かしていくことを確認し、審議会は終了した。

(主題情報部科学技術・経済課)

◎審議会に関する情報および答申等の全文は、当館ホームページ
(<http://www.ndl.go.jp/>) — 「国立国会図書館について」 — 「審議会・科学技術関係資料整備審議会」に掲載されている。

『国立国会図書館月報』読者アンケート結果報告

小誌では、今後の編集の参考に資するため、平成一九年七月に読者アンケートを実施し、約九〇名の方々からご回答をいただきました。ここに厚くお礼申し上げ、結果をお知らせします。

回答者は、公共図書館および大学図書館の方が全体の三分の二以上でした。内訳はグラフィーのとおりです。「ほぼ毎号読む」方が七割以上で、ほとんどの方がホームページではなく冊子体を利用しています。読む目的としては、「業務に役立てるため」が七割、「興味があるから」が四割でした。

記事の評価についてはグラフィ2のような結果でした。サービスや刊行物、所蔵資料の紹介が「役に立つ」「興味がある」という評価をいただく一方で、会議や出張の報告、「月例報告」中の法規改正や人事異動の報告を改善すべきとのご意見が多くありました。

今後読みたい記事としては、「資料収集」「資料保存」など当館の様々なサービスの根幹となる業務に関するもの、「新しいシステムや検索ツールの紹介」「国内外の図書館事情の紹介」など、図書館業務の参考となるようなものが挙げられました(グラフィ3)。専門的な事項や背景について

の説明を充実させてほしいとのご意見もありました。

スタイルについては、現状どおりA5判・縦書きでよいとするご意見が多数を占めました。一方で、文字を大きくする、写真や図版を増やすなど読みやすさへの工夫が求められています。ホームページで利用する際は横書きのほうが見やすいという声もありました。また、表紙デザインの改善、目次の見やすさ向上についてもご要望をいただきました。

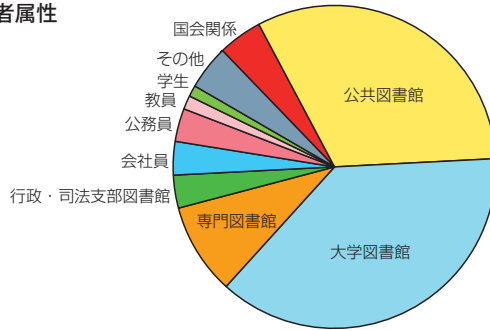
『国立国会図書館月報』は、昭和三六年に^{*}一わが図書館の目的、方針および活動状況を、絶えず、正確にできるだけ広く報告する」ために創刊したものです。当館の幅広い業務内容をコンパクトに伝え、読者のお役に立てるような内容と魅力的な誌面づくりに向けて、いただいたご意見をふまえ、平成二〇年度から誌面を一新する予定です。今後ともご意見を賜りますようお願い申し上げます。

(総務部総務課)

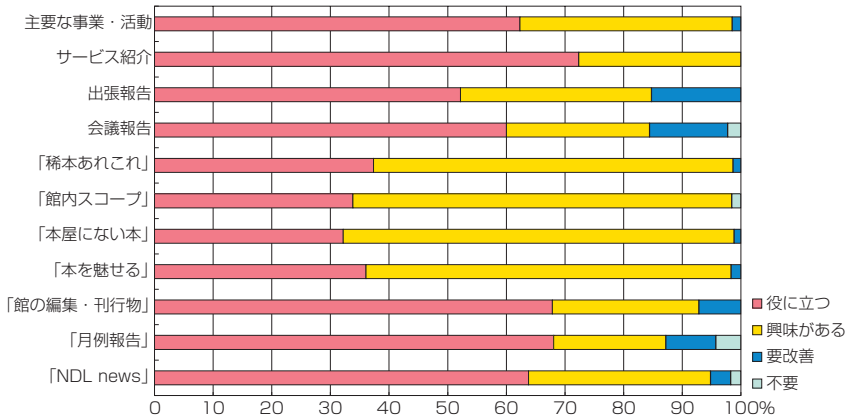
*岡部史郎「創刊のこぼれ」 国立国会図書館月報 一号 一

ページ(一九六一・四)

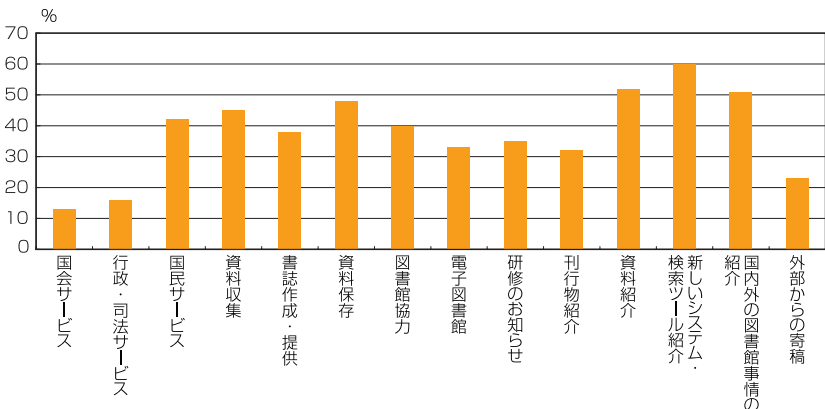
グラフ1 回答者属性



グラフ2 記事の評価



グラフ3 読みたい記事のテーマ (回答割合)



第九回図書館総合展

一月七日から九日まで、パシフィコ横浜展示ホールで第九回図書館総合展が開催された。当館は、展示ブースを設けてデモンストラーションを行ったほか、「日本で一番大きい図書館に行ってみた」と題した永江朗氏ほかによるフォーラム（講演会）、プレゼンテーション「デスクトップに図書館を 国立国会図書館インターネット・レファレンス・ツールのご案内」を行った。フォーラムの詳細は本誌五六三（平成二〇年二月）号で紹介する予定である。

平成一九年度「国立国会図書館データベースフォーラム」



九月一日、関西館大会議室で、また一〇月二二日、東京本館新館講堂で、標記フォーラムを開催した。これは、当館が作成したデータベースやコンテンツを紹介する催しで、関西館では

初の開催であった。

関西館では二三四名の参加があり、一三のデータベース／コンテンツを紹介した。会場前にパソコン三台を設置してデモンストラーションを行うとともに来場者の質問に回答した。希望者には見学ツアーを実施し、一六一名が総合閲覧室や書庫等の施設を見学した。東京本館では第九回全国図書館大会関連行事として開催し、約二八〇名の参加者があった。「国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）」等についてプレゼンテーションを行い、質疑応答も活発に行われた。

今後も、当館のデータベース／コンテンツをより多くの方々に知っていただく場として継続して開催していきたい。なお、フォーラムの資料は当館ホームページに掲載している (<http://www.ndl.go.jp/ip/dbforum/handouts.html>)。

平成一九年度都道府県および政令指定都市議会事務局図書室職員等への研修

一〇月一九日、東京本館で標記研修を開催した。都道府県および政令指定都市議会事務局の図書室職員および調査担当職員を対象としたもので、三三都府県三四名と九市九名計四三名の参加を得た。

当館の概要と議会事務局への協力活動の紹介に続き、「レファレンスツールと調べ方」として当館ホームページから利用できる代表的なツールを紹介し、「調査業務のノウハウ」として当館の立法調査サービスの概要と実情、方法と基盤等について説明した。また、議会官庁資料室および書庫の見学を行った。さらに研修終了後、希望者に対して館内の見学を行った。

平成一九年度児童文学連続講座
—国際子ども図書館所蔵資料を使って—

一〇月一五日から一七日の三日間、国際子ども図書館で、当館が広く収集してきた内外の児童書および関連書を活用した標記の講座を開催した。この講座は、全国の各種図書館等で児童サービスに従事する図書館員の資質向上と幅広い知識の醸成に資することを目的としている。全国一九都道府県の公共・学校・専門図書館等から六〇名の参加があった。第四回目の開催となる本年度は、当館客員

調査員である吉田新一立教大学名誉教授の監修により、総合テーマを「絵本の愉しみ—アメリカ絵本の展開—」とした。アメリカ絵本に造詣の深い研究者と当館職員が講義を行った後、受講者による意見交換等を行った。

第九三回全国図書館大会および 当館関連行事

第九三回全国図書館大会が一〇月二九日から三〇日にかけて東京都内で開催された。日本図書館協会が主催し、当館および東京・埼玉・千葉・神奈川各県の図書館協会が共催した。二九日の開会式では長尾真館長が共催者代表としてあいさつし、全国の図書館とより密接に連携し、社会全体に対する多様なサービスの提供に注力していくことを表明した。三〇日の分科会会場では、当館の電子図書館事業を紹介する展示を行った。

また一〇月三十一日には関連行事として、国立国会図書館データベースフォーラム、東京本館見学会、国際子ども図書館見学会を実施した。

カリフォルニア大学バークレー校附属 C. V. スター東アジア図書館開館と 記念シンポジウム

平成一九年一〇月、カリフォルニア大学バークレー校C. V. スター東アジア図書館兼*チャンリン・ティエン東アジア研究センターが完成した。東アジアコレクションのただけの図書館が設立されたのは、米国の大衆では初めてのことである。

開館を記念し、一〇月一八日、一九日にはシンポジウム「蔵書構築百年の歩み—北米における東アジアコレクションの歴史」が、二〇日には式典と内覧会が開催された。当館からは、生原至剛副館長、北川知子関西館アジア情報課長が出席した。

シンポジウムに先立ち、D. マーカム米国議会図書館副館長、生原副館長、陳力中国国図家図書館副館長による、図書館をめぐる現状と課題を論じた基調講演が行われた。

シンポジウムは、一九四〇年代まで一九四五年から九〇年代のソビエト崩壊まで、一九九〇年代前半から現在までの時代を追った三部構成で、主要な東アジアコレクションを所蔵する北米の大学図書館のほとんどが一堂に会

し、自館のコレクションの成立・発展についての報告を行った。

来年の三月には、新しい図書館に資料が並び、新しいサービスが始まる予定である。

シンポジウムの詳細は、『アジア情報室通報』第五巻四号(平成一九年二月刊行予定)を参照されたい。

* チャンリン・ティエン(一九三五—二〇〇二)一九九〇年から一九九七年まで、中国系米国人としては初めて、同校の学長を務めた。



C. V. スター東アジア図書館

法規の制定

解説

規程第三号は、競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律（平成十九年法律第七十六号）により、地方競馬全国協会が改組され、国立国会図書館法（昭和二十三年法律第五号）における同協会の位置付けが見直されたことを受け、同協会が納入する出版物の部数を四部と定めたものである。

この法規は、競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行の日から施行される。

（規程第三号）

国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程の一部を改正する規程

（平成十九年十一月十二日制定）

国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程（昭和二十四年国立国会図書館規程第三号）の一部を次のように改正する。

第四条第二号中「日本下水道事業団」を「地

方競馬全国協会及び日本下水道事業団」に改める。

附則

この規程は、競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律（平成十九年法律第七十六号）の施行の日から施行する。

おもな人事

―平成十九年秋の叙勲―

元職員に対し左記のとおり叙勲があった。

記

瑞宝中綬章を授ける
（元専門調査員） 田村 正明

（元司書） 下山 護

瑞宝小綬章を授ける
（元司書） 小室 明

（元参事） 鈴木 恒彦

瑞宝小綬章を授ける
（元司書） 中村 醇二

（元参事） 鈴木 恒彦

瑞宝小綬章を授ける
（元司書） 中村 醇二

（元司書） 中村 醇二

瑞宝双光章を授ける
以上平成十九年十一月三日付け

（日）

国立国会図書館の編集・刊行物

J-BISC DVD版（2007）

J-BISC DVDを更新し、旧版の書誌データ（明治期から二〇〇五年三月までの国内刊行単行資料）に、二〇〇七年三月までのデータと、これまで未収録であった、二〇〇四年四月以降に整理した音楽録音・映像資料のデータを追加した。収録件数は約三五八万件である。

今回新たに追加した機能として、JAPAN/MARC2006フォーマットでの詳細表示およびダウンロード機能、収録範囲の拡大に対応するための資料種別による絞り込み検索機能がある。また、新たな検索項目として本文の言語コード、原文の言語コードを設けたほか、録音・映像資料の発売番号などからの検索も可能となった。

価格は、単体利用でJ-BISC DVD版の旧版およびカレント版ユーザーである場合は八万四千円、新規購入の場合は五〇万四千円など、各種利用条件によって異なる。詳細は日本図書館協会へお問い合わせいただきたい。

（日）

レファレンス 六八二号 A 4 一四七頁

■日本・EU関係の進展と課題

■被災者の生活再建支援をめぐる論議と立法の経緯

■中国の宇宙活動について

■家計資産の現状とその格差

■フランスにおける少子化と政策対応

■リビアに対する経済制裁とその帰結

■軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の比較分析

月刊 一、〇五〇円(日)

カレントアウェアネス 二九四号

A 4 三六頁

■中国国家デジタル図書館の概況

■全世界のデジタル図書館の統合ポータルを
目指して

■図書館と書店のコラボレーション

■変わらない組織と動かないシステム

■欧米における図書館、文書館、博物館の連携

■電子ジャーナルのアーカイビングの現状

■ハ動向レビュー

■米国における図書館アドヴォカシーの展開
■時空間情報をキーとする文化資源アーカイ
ブズの構想

■大学図書館と電子ブック

△研究文献レビュー

■公共図書館政策の研究動向

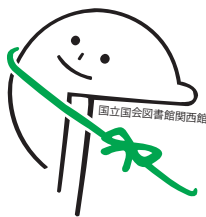
季刊 四二〇円(日)

入手のお問い合わせ

(日) 日本図書館協会(〒104-8333 東京都中央区新川1-2-14)

特に記載のないものは税込価格です。

関西館のマークができました



関西館について

広く知っていただ

くためのマークが

できました。シン

ボルマークは、デ

ジタルアーカイ

ブ、図書館協力、

遠隔利用サービス、

アジア情報発信といっ

た関西館の多様な事業の広がりを表す地球

と、図書館資料の代表としての本を

リボンで結んだ姿をデザインしてお

り、利用者と関西館を結ぶ意味も込

められています。ロゴマークは、関

西館の英語名称の頭文字をデザイン

したものです。

KNDL

お知らせ

年末年始のサービス休止について

通常の年末年始のサービス休止に併せ、受
変電設備改修工事のため、NDL・OPAC
のサービスを休止いたします。利用者の皆様
にはご不便をおかけしますが、ご了承の程お
願い申し上げます。

各施設の休館期間

左記の期間、来館による閲覧・複写サービ
スを休止させていただきます。

東京本館・関西館・国際子ども図書館

平成一九年二月二八日(金)

平成二〇年一月四日(金)

■NDL・OPACのインターネットサービ
スの休止期間

左記の期間、当館ホームページを通じたイ
ンターネット経由の資料検索、複写申込み等
のサービスを休止させていただきます。

平成一九年二月二八日(金) 一七時

平成一九年二月三〇日(日) 一七時三〇分

「チェコへの扉ー子どもの本の世界」関連講演会



資料 左ページ上から
 「長い長いお医者さんの話」
 カレル・チャペック作
 Albatros 1986
 「もぐらとずばん」
 エドアルド・ベチシカ作
 スデニェク・ミレル絵
 Albatros 2003
 『昔話集』
 カレル・ヤロミール・エルベン、
 ボジエナ・エムツォヴァー作
 ヨゼフ・ラダ絵
 Albatros 1993

関連催物として、次の講演会を開催します。申込方法の詳細は、国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) をご覧いただくか、電話でお問い合わせください。なお、講演に先立ちチェコ音楽の演奏会を開催します。

- 日 時 平成20年1月27日（日）
 14：00～16：00（予定）
- 会 場 国際子ども図書館 3階ホール
- テ ー マ 「チェコ児童文学への招待」（仮題）
- 講 師 村上健太氏（本展監修者 チェコ児童文学研究者、駐日チェコ共和国大使館翻訳官）
- 内 容 チェコ児童文学の歩みについて解説し、チェコの子どもの本と当展示会の魅力を語ります。
- 対 象 中学生以上
- 申込方法 直接来館、往復はがき、電子メール
 （事前申込制、先着順）
- お問い合わせ 国立国会図書館 国際子ども図書館
 企画協力課 TEL 03-3827-2053(代表)

国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し 「ヨーロッパセット」（小学校低学年向／小学校高学年向） の貸出開始について

国際子ども図書館では、世界各国・地域の歴史や文化、生活等を紹介する資料、その国や地域で読まれている児童書等50冊前後をセットにして、学校図書館に1か月間貸し出す学校図書館セット貸出しサービスを行っています。

平成20年1月から「ヨーロッパセット」（小学校低学年向／小学校高学年向）の貸出しを開始します。このほかに、「韓国セット」、「北欧セット」、「カナダ・アメリカセット」、「アジアセット（中国・東南アジア諸国）」（各セットとも小学校高学年向／中学校向あり）、「世界を知るセット」（小学校低学年向／小学校高学年向）があります。

サービスの詳細および資料の解題は、国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) 「学校図書館へのサービス」をご覧ください。

■お問い合わせ 国立国会図書館 国際子ども図書館児童サービス課企画推進係
 TEL 03-3827-2053（代表） FAX 03-3827-2043

国際子ども図書館展示会 「チェコへの扉—子どもの本の世界」開催について



ヨーロッパのほぼ中央に位置するチェコ共和国。「百塔のプラハ」とも称される美しいプラハを首都とするこの国は、児童文学や絵本など子どもの本の宝庫としても知られています。国際子ども図書館では、東京外国語大学名誉教授千野栄一氏旧蔵チェコスロバキア児童書コレクションおよび20世紀前半の昔話や創作童話の本から成る、国内に類を見ないまとまったチェコの児童書コレクションを所蔵しています。

このたび、チェコの子どもの本を広く紹介する「チェコへの扉—子どもの本の世界」展示会を開催いたします。昔話や伝説の本をはじめ、第一共和国時代（1918-1938）を代表するチャベック兄弟やヨゼフ・ラダ、第二次世界大戦後では詩人のフルビーン、作家のジーハやペチシカ、画家ではトゥルンカ、ズマトリーコヴァー、ミレル、パツォウスキーなどの作品により、チェコの児童文学の歩みをたどります。

また、しかけ絵本のほか「もぐら」や「カップ」などチェコで愛されているキャラクターが登場する絵本などの特別コーナーも設け、国際子ども図書館所蔵資料を中心に、約280点の資料を展示いたします。

会期中は講演会、ギャラリートークなど関連催物を開催します。詳細は、本誌のほか国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）等で順次お知らせします。



開催期間	平成20年1月26日（土）～平成20年9月7日（日）
休館日	月曜日、国民の祝日・休日（こどもの日を除く）、第三水曜日
開催時間	9：30～17：00
会場	国際子ども図書館3階 本のミュージアム
入場	無料

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

東映アニメーション50年史

1956-2006 走りだす夢の先に
50周年実行委員会／50周年事務局50年
史編纂チーム編纂 東映アニメーション
刊（〒178-0063 東京都練馬区東大泉二
丁目一〇番五号）
二〇〇六 一四四頁 A 4

(DH22-H420)

画面に映し出される美しい映像に、迫力ある音声。適度な想像の余地を保ちつつ、人によって緻密に創造された世界。日本のアニメは海外の人々を虜にし、「ジャパニメーション」という言葉まで誕生させた。

経済産業省の資料によれば、世界で放送さ

れているアニメの六割が日本製だという。ほぼ世界中に供給され、非常に高い国際競争力を持つ、現代日本を象徴するコンテンツ産業なのである。

本書はアニメ業界では日本を代表する会社である「東映アニメーション」の社史である。同社は映画、テレビ、ビデオ、インターネット上で配信するアニメを製作し、その著作権をもとにした版權事業や関連事業など、多岐にわたるビジネスを展開している。海外でも事業拡大を行っており、同社の作品は世界中で放映されている。

本書は五章構成になっており、第一章「東映動画」誕生」では同社の誕生した経緯が書



かれていく。続く第二章「テレビアニメへの進出」、第三章「アニメビジネスの開花」では長編のアニメ映画からテレビアニメへとつながる流れが、当時のアニメブーム旋風などの業界の状況などを交えながら詳細に述べられている。第四章「広がるメディアミックス」、

第五章「世界の「TOEI ANIMATION」」ではアニメ製作以外の市場参入や版權ビジネスについても写真を交えて解説されている。

同社の前身である「東映動画」が誕生した頃、テレビの普及が始まったばかりで、アニメは「漫画映画」と呼ばれていた。アメリカに優るとも劣らぬ作品を作り、「東洋のデイズニー」になることを目指した足跡が第一章から第五章にわたってまとめられている。本書はアニメ産業のこの五〇年余りの歴史をたどるための貴重な記録にもなっているのだ。

このような事業史以外に、同社の事業内容であるアニメ製作工程についても、本書の始めに特集として「夢（アニメーション）の出发点」という特集が収録されている。例えばアニメの背景画の製作には専門家がいて、美術学校で日本画を選考していた人がなることが多かったそうだ。一見するとアニメには無

縁と思える日本画だが、実は日本の美しいアニメーションの背景は伝統的な日本画が支えていた。本書にはこうした日本の会社ならではアニメ製作のエピソードが随所に盛りされている。

設立からの五〇年という月日の間、時代が移り変わるにつれ、専門家が手作業で行っていた部分も徐々に機械化されていった。従来は車や飛行機を使って行われてきたフィルムを受け渡し作業が現在ではデジタル化され、高速通信ネットワークを通して日本国内および海外の子会社と送受信して行っている。同社は次第に省力化、合理化される商業アニメーション路線を追求し、創立当初に目標とした東洋のデザインーのそれとは異なる路線を確立していった。このようなビジネススタイルの移り変わりも本書から知ることができる。内容はビジネスにだけ触れているわけではない。各章の間には年代ごとに公開された作品のクロニクルを掲載しており、子どもでも楽しめる一冊となっている。一つ一つの作品の紹介は明瞭簡潔で、物語の中での印象の深いコマが付されており、思わず吸い込まれそうになる。巻末には主要作品リストが掲載さ

れており、同社の作品の変遷を知ることができる。

日本のアニメは多くの人々の手によって築き上げられ、私たちに夢を与えてきた。社史と聞き、堅苦しいイメージを持つ人もいるかもしれないが、日本のアニメの技術や地位が引き継がれていくためにも、手に取ってほしい一冊である。

(東川 梓)

呉海軍病院史

呉海軍病院史編集委員会編

呉海軍病院史編集委員会刊 (千737-0023)

市青山町三番地一号)

二〇〇六・一〇 一四六頁

A4

(E6231-H589)

団体の歴史にかかわる本は多いが、そのなかで、病院史は、比較的珍しいジャンルのようだ。ましてや、海軍病院の病院史となればなおさらである。

本書は開院(一章)、明治期(二章)、大正期(三章)、昭和前期(四章)、閉院と戦後の歩み(五章)、資料(六章)と、ほぼ時系列に沿う形で、豊富なデータや統計に基づいて呉海軍病院の歩みを描き出していく。

院長をはじめとする病院関係者、軍港とし

呉海軍病院史

て病院の発展を支えた呉(広島)や呉住民、入院した患者(軍人や軍属などの戦傷病者)、衛生に関する法律や制度、などの歴史を互いに関連づけながら、ていねいに描き出している点が本書の面白みといえるだろう。

なかでも一貫しているのは、病院の役割を「呉」という地域が置かれていた状況のなかで位置づけようとする視点である。例えば呉が鎮守府(近海防衛のための海軍官庁)となったことで、入漁が禁止され漁業に多大な打撃を与えたことなど、現地の人々の生活についての記述も充実しており、興味深い。

とはいえ、本書を読むと、呉海軍病院が、単なる広島地域の病院ではなかったことがよ

くわかる。もともと海軍病院とは、海軍が鎮守府（呉の他に、横須賀、佐世保、舞鶴などに置かれた海軍官庁）に設置した病院である。呉海軍病院も、呉鎮守府の創立と相前後して、

明治二年七月一日に開院した。患者は、戦闘によって傷ついた軍人・軍属が主で、病院船によって運ばれたことも多かったという。第二次世界大戦後には、アメリカに続いてイギリス連邦軍に接収され、占領軍の病院へと転換を遂げ、呉国立病院（昭和三十一年創立）を経て今日に至っている。

このような同病院の歩みを反映して、本書には海軍や戦争の歴史をしるばせる挿話も多い。日露戦争時の明治三八年にロシア海軍から接収された病院船「アリオール」号を治療に利用したという話などは、いかにも海軍の病院らしい一こまといえる。

さらにいえば、呉海軍病院という素材の面白さはその歴史の長さだけでなく、その多様な性格にもあるようだ。呉海軍病院は患者慰安所、植物園などの他、大規模な消毒所（三ツ子島）も持っていたのだという。

以上に述べたように本書は、堅実な歴史書としての趣が強い。けれども病院自体が興味

深い歴史を持つていることに加えて、個々のできごとを叙述する上での語り口には工夫が凝らされており、そのことが本書を印象深い読み物にしている。

例えば、昭和前期や占領期部分の記述では、手記や回想録が長文にわたって引用され、史料不足を補うとともに、戦争が人々にもたらした体験の重さを描き出すことに成功している。「マーキョとリバガーゼを当てるといったかんたんな応急手当しかできず本当に気の毒でした。」（被爆者の治療にあたった日赤看護婦）といった言葉からは、当事者の思いが伝わってくる。

さらに多くの写真も理解を助けてくれる。カルテ、タイル張りの手術室、戦傷病者（患者）の職業訓練、X線撮影室、毒ガス訓練、山本五十六海軍大将の慰問など。これらの写真からは清潔で近代的だった呉海軍病院の姿が垣間みえる。しかし一方で、写真に写された瞬間は病院を取り巻く現実のごく一部にすぎなかつたはずだ。豊富に添えられている写真は、呉海軍病院において、ひいては戦争において「何が写されなかつたのか」を逆に考えさせてくれるのである。

呉海軍病院は、いまや独立行政法人国立病院機構呉医療センターとなった。名称だけでなく、役割も往時とは異なるのだろうか。しかし本書が全体として訴えかけてくる

「戦争と医療が表裏一体にある」という事実自体は、今なお重い気がしてならない。

（葦名 ふみ）

江戸の遊び けっこう楽しいエコレ

ジャー 平成一八年度東北大学附属図書館企画展 東北大学附属図書館編
東北大学附属図書館刊（〒980-8576 仙台市青葉区川内二七一）
二〇〇六・一一 一一五頁 A4

(G3341-H107)

梁塵秘抄で「遊びをせんとや生れけむ」と詠われているように、古くから人の営みの中には「遊び」が存在していた。現代から遡ること一四〇年以上前、江戸の人々ほどのような遊びに興じていたのであるうか。

本書は平成一八年一月にせんだいメディアアテークで開催された東北大学附属図書館企画展「江戸の遊び けっこう楽しいエコレジャー」の図録である。「季節の楽しみ」「よむ楽しみ」「みるきく楽しみ」「あそぶ楽しみ」



の四部で構成され、図版一三二点をカラーで収録している。

展示資料には都市としての江戸に限らず、各部の最後で仙台藩（宮城）に関する図版もあり、地元の見学者にとっても身近に感じられるよう工夫がなされている。また、資料に描かれている遊びは現代人にも身近なものが多く、江戸期から基本的な遊びは変わっていないことに気付かされる。

なお、展示会のサブタイトルの由来については「江戸の遊びをエコの観点からとらえてみようと考えた」とし、展示会の主旨については「環境共生型社会といわれる江戸期の遊びが、我々の生活や暮らし、環境との関わり

についてヒントになる」「江戸期の遊びとはいえ、楽しさの観点から見ると現代の遊びと劣るとは思われない」と巻頭で述べている。ここでは第一部「季節の楽しみ」から三月を紹介する。三月のテーマとしては、「花見」「雛祭り」「潮干狩り」という現代にも通じる遊びが挙げられている。

たとえば、「花見」の展示資料は、一立斎広重の「富士三十六景」から「飛鳥山の桜」と「隅田川の桜」である。いずれの図版も桜の花が薄桃色で着色され、春爛漫の美しい風景が描かれている。ここで桜に詳しくない方はソメイヨシノと間違えてしまうかもしれないが、江戸期の桜はソメイヨシノではない旨の適切な囲み記事が入っている。

「雛祭り」の展示資料は、市場通笑撰、鳥居清長画の「二度目の童宮」である。図版としては単色刷りであり、大人の男女がひな壇の飾り付けをしていると思しき構図で、少々地味に感じるが、これはいわゆる「黄表紙」のうち滑稽断というジャンルの資料であることが解説されており、文章と合わせて楽しむのであることがわかる。

「潮干狩り」の展示資料は、葛飾北斎の「画

本東都遊」である。昨今の潮干狩りのように人出は多くないが、薄桃色の霞がかかる中、点々とちらばって潮干狩りに勤しむ様子が描かれている。江戸期には品川沖に広大な干潟が出現したとの解説から、現代の干潟の状況について考えさせられるだろう。

このように本書は解説および囲み記事が充実しており、江戸期の文化・環境に対する理解の助けになるよう工夫がなされている。

ちなみに、「遊び」がテーマというと、子どもが描かれた図版が多いのではないかと思われるかもしれないが、本書は大人だけ、あるいは大人と子どもが共に遊びに興じている図版ばかりで、子どもだけが主題となっている図版は一枚もない。大人が楽しめる遊び（娯楽）が中心なので、遊び＝子ども向けと考えるに手にとってみてはいかがだろうか。

最後に、大学図書館と県立図書館の所蔵資料による展示会という点、堅苦しくて一般の方には面白みが感じられないように思われるかもしれないが、テーマや解説を工夫し、エピソードに関心を持たせようという試みは成功したといえよう。

渡辺 和重

関するものが多く、日本の立法補佐機関に属するものとして興味深かった。具体的には、「立法者の専門職への道」(Legislators' professional path)と題する一連のセッションで、技術の進展、権力の移行、任期制限等による変化への効果的な対応、個人または社会生活で直面する紛争を処理するための多様な方法と好ましい処理スタイル、成功するスピーチのための12の助言等をテーマとした講演が行われ、多くの参加者を集めていた。

＜州議事堂の見学＞

国際代表独自のプログラムとして、大会2日目にマサチューセッツ州議事堂見学が行われた。歴史ある議事堂内部の見学と併せて、「mock session」と呼ばれる模擬セッションが下院の議場で行われ、国際代表が議員席に実際に座って議長と議員の間のやり取りを傍聴した。議案の説明、討論、電子投票による採決という一連の議事手続を間近で見ることができ、米国の民主主義の実際を学ぶ機会として、参加者にも好評であった。

おわりに—大会雑感

連邦制度を採る米国において、州は国家に近い存在であり、州議会が日常生活のルールを規定している。州と連邦との権限配分は憲法に規定されており、知識としては認識していたつもりであったが、今回NCSLの大会に参加して実感できた気がする。前述のReal ID法に関連する州の負担、州と連邦の政策が交錯する移民制度改革等、州議会における立法動向は、連邦の政策を考える上で無視できない。その意味で、大会で議論されたような政策課題に関する情報収集は重要であり、日本の立法補佐機関の関係者が参加する意義があると思われた。

また、講演の最中に静寂を破った幼児の泣き声を、とっさに「未来の声を聞きましたか」と自らの講演に取り込んで話を進めたペロシ議長に象徴されるように、政治において言葉が重要であることを実感した5日間でもあった。

大会期間中2日間にわたり、来年の大統領選挙候補者として誰を選択するかについて、参加者を対象に非公式世論調査(straw poll)が行われた。その際、民主主義への最大の脅威についても設問があり、国民がシニシズムに陥ることと回答したのが42%、政治とカネの問題を挙げていたのが24%で、日本の状況と引き比べても興味深い結果となった(大統領選挙候補者については、民主党がクリントン上院議員、共和党がロムニー前マサチューセッツ州知事の名前が上位に挙がっていた)。

2008年の大会は、ハリケーン「カトリーナ」の上陸から2年が経過したルイジアナ州ニューオーリンズで開催される。災害の爪あとが色濃く残るニューオーリンズでの開催は当初危ぶまれていたが、大会4日目の昼には開催地からジャズバンドが参加し、華やかに来年の開催を祝った。

(たけだ みちよ 調査及び立法考査局議会官庁資料課長)

を囲んで、両親、祖父母が自らの経験を子どもたちと話すことが大切であるとし、会場から大きな拍手が送られていた。

大会2日目の全体会議のテーマも「高等教育への挑戦」で、教育問題が米国で大きな政治課題の一つとなっていることを認識させられた。OECDによれば、米国の高等教育のランクは他の先進国に比較して下がっており、退職するベビーブーム世代に代わる要員が十分訓練されていないという不安が表明されていた。会議は、米国の高等教育の専門家3名によるパネルディスカッション形式で進められ、大学等の高等教育機関とビジネス業界の間の協力が、世界経済における米国の立場を競争力あるものとするとの主張がなされていた。

全体会議に出席した多くの著名人の中でも、最も参加者の注目を集めたのは大会4日目に登場したペロシ連邦議会下院議長であろう。悪天候のためワシントンからの飛行機が遅れ、予定より1時間以上遅れての講演となったが、史上初の女性下院議長ということもあり、スタンディング・オベーションで迎えられた。ペロシ議長は、連邦議会の議長として、州議会議員に対する感謝を述べた後、州と連邦の連携が米国を強力な国家にするとして、その重要性を訴えた。NCSLの大会には、全国の州議会議員やそのスタッフとともに連邦議会議員も多数参加しており、政策課題によっては連邦と州の利害が衝突することも珍しくない³。全米州議会の大会で連邦議会議長が講演する意義は、参加者にも十分理解されていた模様である。

<政策別セッション>

全体会議とは別に、5日間の会期中200以上の政策別セッションが連日開催された。



国際代表のオープニング・セッション

連邦の移民政策が各州に及ぼす影響、気候変動に対する州の役割、Real ID法⁴、テロや災害に対する危機管理等、時宜に合ったテーマから政治家、立法スタッフに有益な実務的な講演まで多岐にわたった。

筆者が参加した国際代表のカテゴリーでは、60ページを超えるプログラムの中から事務局側が選択した国際代表向けの独自のプログラムが用意されていたが、その中には立法者または補佐機関スタッフの養成に

³ 大会初日には、「現代のボストン茶会事件」として、4つの州議会の上院議員が、ボストン港を舞台に、連邦から州に費用負担が求められたいくつかの案件を茶箱に見立てて海に投げ捨てる抗議のパフォーマンスが行われた。NCSL news<<http://www.ncsl.org/programs/press/2007/pr070805.htm>>

⁴ 2005年5月に成立した「運転免許証の発行基準に関する連邦法」の実施規則案に関する議論。各州が所管する運転免許証の規格化を図ったもので、各州は2008年5月までに対応が求められると同時に、導入経費110億ドルを負担しなければならないため、連邦政府との間で大きな議論になっている。法律の概要については、以下を参照。在シカゴ日本総領事館ホームページ<http://www.chicago.us.emb-japan.go.jp/con_realID.htm>

交代で務めることになっているが、今年の大会で、テキサス州上院議員のヴァン・デ・ブッテ氏（民主党）からデラウェア州下院議員のストーン氏（共和党）に交代した。女性の会長同士の引継ぎは史上初とのことであった。

全米の州議会を代表する機関であるNCSLは、もう一つ大きな役割を担っている。全米の立法者が、テロとの戦い、環境問題等共通の政治課題に対して諸外国の議会関係者と意見交換を行う機会を提供するとともに、立法府の制度強化という目標に向け、民主化途上の国々に対し立法過程、議事手続、委員会の構成や機能等に関する技術的支援を提供しているのである。この分野を担当しているのが国際プログラム部で、全米州議会の年次大会に各国の代表が参加しているのもそのためである。州議会の議員やスタッフの全国会議ということもあり、連邦制を取る各国（ドイツ、オーストラリア、カナダ等）からの参加者が多かったことは言うまでもないが、紛争終結後の民主化途上にあるナイジェリア、コートジボアール等のアフリカ諸国の参加は、民主的政治制度の構築支援の観点からのものであろう。

今年の国際代表のカテゴリーでは、日本を含む25の国・地域から約250名の国および州レベルの議員、スタッフが参加したが、特に今回は、南アフリカと中国からの参加者が多いのが目を引いた（ちなみに日本からの参加者は、筆者のほかにも衆参法制局から各2名であった）。また、紛争後の諸国に対する平和構築活動で国際的にも重要な役割を担っている国連開発計画（UNDP）や列国議会同盟（IPU）、さらに米国内の民主化支援組織である国際共和研究所（共和党系）、米国民民主党国際研究所（民主党系）の代表者も参加していた。

2007年年次大会の概要

大会期間中は、200以上の政策別セッションが連日開催されるほか、午前中に全体会議、午後に見学、夜は大会参加者を歓迎する各種レセプションといったスケジュールが続いた。また大会2日目から展示会場がオープンし、米国内の各種企業や労働組合、利益団体、連邦や州の機関等300以上の団体が出展し、参加者の関心を集めていた。以下、大会の様子を簡単に紹介する。

<全体会議>

全体会議では、著名人を招いた講演会や国政課題をテーマとしたパネルディスカッション、ビジネス・ミーティング等が行われた。ビジネス・ミーティングでは、会長を始めとするNCSLの役員交代、州議会で活躍した議員に対する表彰、連邦に対する州議会独自の政策の採択等が行われた。全体会議で印象に残ったのは、大会3日目に行われたマッカーロー氏による講演であった。マッカーロー氏は、『ジョン・アダムズ』、『トルーマン』でピューリッツァー賞を2度も受賞しているベストセラー作家で歴史家でもある。歴史を知らない学生が多いという大学等の講演における自らの体験を披露しつつ、私たちの未来にとって重要なことは過去について子供たちに教えることであるとして、歴史を学ぶことの重要性を強調した。また、家庭ではテレビを消し、食卓

2007年全米州議会協議会年次大会に出席して

武田 美智代

はじめに

2007年の全米州議会協議会（National Conference of State Legislatures、以下NCSL）年次大会は、8月5日から9日にかけて、マサチューセッツ州の州都であるボストンで開催された。今年の大会は、大会史上最大規模の9,000人（主催者発表）を超える参加者を集めた¹。国立国会図書館からは3年毎に代表者を派遣しており、今年は筆者が、国際代表（international delegate）のメンバーの1人として大会に参加した。国際代表には家族連れも多く、和やかな雰囲気であった。



会場のボストン会議・展示センター

開催地のボストンは、米国独立の舞台として知られる観光都市であると同時に、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめ多くの大学を擁する教育・研究都市でもある。5日間の会期中には、ボストン公共図書館、ハーバード大学、マサチューセッツ州議事堂等、会議場を離れた見学やレセプションなどの多様なメニューが用意され、主催者側の参加者に対するきめ細かい配慮が感じられた。

全米州議会協議会とは

大会の報告を行う前に、主催者であるNCSLの紹介をしておきたい。NCSLは、州議会関係の三つの団体、具体的には全米立法者会議（NLC）、州議会指導者全国協議会（NCSLL）、州議会議員全国協会（NSSL）が1975年1月に合併統合して発足した超党派の団体である²。全米50州や準州の議員とそのスタッフに奉仕し、差し迫った州の政治課題に対して調査、支援、政策立案者の意見交換の機会等を提供しており、ロビイング等を通じて連邦議会や連邦政府に対する州議会、州政府の利益の有効な代弁者となっている。本部はコロラド州デンバーにあり、州と連邦との調整のためワシントンに事務所を設けている。超党派の団体として、NCSLの会長は民主、共和両党が

¹ 今年の大会の概要は、NCSLのホームページにも掲載されている。

<<http://www.ncsl.org/annualmeeting/>> 以下、インターネット情報は、すべて2007年11月9日現在。

² NCSL成立の経緯については、以下の論文を参照。中村泰男「全米立法者会議第27回年次総会に出席して」『国立国会図書館月報』171号、1974、pp.2-10。

国立国会図書館資料利用規則及び国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則の一部を改正する規則（平成19規則3）	557 ⑧：27-28
国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則（平成19規則2、4～5）	554 ⑤：18-21／558 ⑨：27／560 ⑪：23
国立国会図書館組織規程の一部を改正する規程（平成19規程1）	554 ⑤：18
国立国会図書館の英訳組織名に関する件の一部を改正する件（平成18館長決定8）	551 ②：29
国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程の一部を改正する規程（平成19規程3）	561 ⑫：30
国立国会図書館法の一部を改正する法律（平成19法律10）	554 ⑤：17
自転車競技法及び小型自動車競走法の一部を改正する法律（抄）（平成19法律82）	556 ⑦：18
総合研究開発機構法を廃止する法律（抄）（平成19法律100）	557 ⑧：26-27
複写料金に関する件の一部を改正する件（平成19告示1）	560 ⑪：23
防衛庁設置法等の一部を改正する法律（抄）（平成18法律118）	551 ②：27-28
モーターボート競走法の一部を改正する法律（抄）（平成19法律16）	554 ⑤：17-18

おもな人事

おもな人事	
550 ①：26／552 ③：33／553 ④：10-13／555 ⑥：22-23／556 ⑦：19／557 ⑧：28／558 ⑨：27／559 ⑩：9	
感謝状の贈呈	553 ④：14
職員に対する叙位	560 ⑪：23
職員の採用	554 ⑤：21
職員の死亡通知	559 ⑩：9
職員の出向	553 ④：13／556 ⑦：19
職員の退職	550 ①：26／552 ③：33／553 ④：14／560 ⑪：23
職員の転任	554 ⑤：21／556 ⑦：19
職員の表彰	553 ④：13／555 ⑥：23
新館長就任	553 ④：10
専門調査員の退職	550 ①：26／553 ④：13-14
平成19年秋の叙勲	561 ⑫：30
平成19年春の叙勲	554 ⑤：21
元職員に対する叙位	552 ③：33／555 ⑥：23／556 ⑦：19／559 ⑩：9／560 ⑪：23
元職員に対する叙位および叙勲	555 ⑥：23／559 ⑩：9

遠客近客

551 ②：25-29／554 ⑤：22-23／557 ⑧：25／560 ⑪：24-25
--

- 『日本のビール 横浜発国民飲料へ 特別展』
 神奈川県立歴史博物館編・刊 (濱野雄太) 556 ⑦ : 22-23
- 『発明協会百年史』
 社団法人発明協会刊 (安井一徳) 559 ⑩ : 13
- 『文樂のかしら 国立文楽劇場所蔵』
 吉田文雀監修・解説、国立文楽劇場事業推進課編 日本芸術文化振興会刊
 (岡村志嘉子) 550 ① : 25-26
- 『南座松竹経営顔見世百年記念史』
 永山武臣監修、「南座松竹経営顔見世百年」編纂委員会企画・編集 松竹南座刊
 (岡村志嘉子) 552 ③ : 31-32
- 『弥生画帖 弥生人が描いた世界 平成18年春季特別展』
 大阪府立弥生文化博物館編・刊 (福林靖博) 558 ⑨ : 28-29

館内スコープ

図書課保管係	550 ① : 13
人文総合情報室	551 ② : 12
外国図書・特別資料課	552 ③ : 19
児童サービス課	553 ④ : 15
新聞課	554 ⑤ : 25
企画課電子情報企画室	555 ⑥ : 20
電子図書館課著作権処理係	556 ⑦ : 11
会計課調達係	557 ⑧ : 13
古典籍課	558 ⑨ : 18
社会労働課	559 ⑩ : 8
政治史料課占領期資料係	560 ⑪ : 16
支部図書館・協力課協力係	561 ⑫ : 23

常設展示のお知らせ

第146回 路面電車クロニクル	550 ① : 13
第147回 「近現代の職人」—ものづくりの歴史の中で—	552 ③ : 19
第148回 女学生らいふ	554 ⑤ : 25
第149回 わたしたちの健康法	556 ⑦ : 11
第150回 近代日本と「国語」	558 ⑨ : 18
第151回 本の中の「おりがみ」	560 ⑪ : 16

法規等の制定・改正

- 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律(抄)(平成19法律76) 556 ⑦ : 18
- 国立国会図書館学術文献録音テープ等利用規則の一部を改正する規則(平成19規則1)
 554 ⑤ : 18
- 国立国会図書館職員定員規程の一部を改正する規程(平成19規程2) 554 ⑤ : 18
- 国立国会図書館職員に対する訓告等の措置に関する内規(平成18内規10) 551 ② : 28-29

本屋にない本

- 『イギリスの美しい本』展 Exhibition “Beautiful British Books”』
佐川美智子、江尻潔、永山多貴子、山根佳奈、曾根広美編 マンゴステイン刊
（嶋本裕子）555 ⑥：21-22
- 『永樂の陶磁器 了全・保全・和全 三井記念美術館蔵品図録』
財団法人三井文庫三井記念美術館編・刊（前川直之）553 ④：21
- 『江戸の遊び けっこう楽しいエコレジャー 平成18年度東北大学附属図書館企画展』
東北大学附属図書館編・刊（渡辺和重）561 ⑫：36-37
- 『絵葉書のなかの豊橋 思い出の風景をたずねて』
豊橋市二川宿本陣資料館編（伊東祐介）560 ⑪：27-28
- 『青梅線玉手箱 眠りからさめた鉄道資料 特別展』
青梅鉄道資料調査会執筆 青梅市郷土博物館編・刊（古川浩太郎）552 ③：30-31
- 『甲冑小札研究ノート』
山岸素夫監修、金山順雄著 株式会社レーヴック刊（大島康作）556 ⑦：21
- 『木積の箕づくり 千葉県匝瑳市』
TEM研究所編著 千葉県伝統文化再興事業実行委員会刊
（桂木小由美）559 ⑩：11-12
- 『京の食文化展 京料理・京野菜の歴史と魅力 身体にやさしい食のルーツ the
history and charm of Kyoto cuisine and vegetables』
京都文化博物館学芸課編 京都文化博物館刊（浅見文絵）557 ⑧：23-24
- 『呉海軍病院史』
呉海軍病院史編集委員会編・刊（葦名ふみ）561 ⑫：35-36
- 『財団法人設立50周年史』
財団法人設立50周年記念行事準備委員会編 財団法人文化財虫害研究所刊
（宇野理恵子）558 ⑨：29-30
- 『歯科の歴史への招待 歴史遺産と史料を求めての旅』
本平孝志、内藤達郎、安藤嘉明著 クインテッセンス出版刊
（林明日香）554 ⑤：24
- 『市民活動資料の保存・整理・公開に関する全国調査報告』
市民・住民運動資料研究会編・刊（堀内寛雄）553 ④：20
- 『知られざる琉球使節 国際都市・鞆の浦 特別展』
福山市鞆の浦歴史民俗資料館編 福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会刊
（大迫丈志）560 ⑪：28-29
- 『東映アニメーション50年史 1956・2006 走りだす夢の先に』
50周年実行委員会/50周年事務局50年史編纂チーム編纂 東映アニメーション刊
（東川梓）561 ⑫：34-35
- 『特別展「古密教—日本密教の胎動」目録』
奈良国立博物館編・刊（五十嵐麻理世）551 ②：25-26

稀本あれこれ

- 467- 高木惣吉カード資料一、二 (石田暁子) 550 ① : 口絵
 -468- 小野職愨著 『埵甘度爾列氏自然科目之順序』 (膝館寿巳恵) 551 ② : 口絵
 -469- 『神聖ローマ帝国議会・決議・制定法令大全』 (白岩一彦) 552 ③ : 口絵
 -470- 生人形 (活人形) の錦絵 (川本勉) 553 ④ : 口絵
 -471- M.メッテール『印刷年報』(1719-41) (折田洋晴) 554 ⑤ : 口絵
 -472- 「扇一登 日記」 (鈴木宏宗) 555 ⑥ : 口絵
 -473- 義経奥州下り 一卷一軸 (間島由美子) 556 ⑦ : 口絵
 -474- 『本朝度考八咫鏡説平田氏批攷弁』 狩谷椽斎自筆 (大沼宜規) 557 ⑧ : 口絵
 -475- 『蒙古源流考』 (白岩一彦) 558 ⑨ : 口絵
 -476- 『幕末頃庶民風俗画集』 (中澤彰人) 559 ⑩ : 口絵
 -477- 「中村正直書簡 重野安禰宛 明治5年10月4日」 (上田由紀美) 560 ⑪ : 口絵
 -478- 「浅沼稻次郎読書ノート 思想の母」 (石田暁子) 561 ⑫ : 口絵

本を魅せる 常設展示案内

- (22) 路面電車クロニクル (青山真紀、福林靖博、藤沢宗輝) 551 ② : 34
 (23) 近現代の「職人」—ものづくりの歴史の中で—
 (大森寿恵、福田亮、日向智昭) 553 ④ : 28
 (24) 女學生らいふ (石澤文、高峯康世、藤井朋子) 555 ⑥ : 32
 (25) わたしたちの健康法 (荻原みさ子、小幡竜志、刈田朋子) 557 ⑧ : 34
 (26) 近代日本と「国語」 (石澤文、小針泰介、藤井朋子) 559 ⑩ : 30
 (27) 本の中の「おりがみ」 (青山真紀、高橋三紗、日向智昭) 661 ⑫ : 52

関西館の資料紹介

- 第13回 (最終回) アジア資料—アジアの新聞— (辻佑果) 550 ① : 37-32

知識をカタチに—国立国会図書館が目指す「主題情報提供サービス」

- 第1回 総論：図書館の「サービス」を考える (福林靖博) 553 ④ : 27-26
 第2回 テーマ別調べ方案内 (大沼太兵衛) 554 ⑤ : 31-30
 第3回 主題書誌に関するデータベース：「テーマ」から資料を探せる蔵書目録
 (上田貴雪) 555 ⑥ : 31-29
 第4回 特定主題のホームページ：<議会官庁資料室>と<アジア情報室>
 (刈田朋子、田中福太郎) 556 ⑦ : 41-38
 第5回 電子展示会 (中井恵久) 557 ⑧ : 33-32
 第6回 「科学技術情報整備」のページ (中島幸子) 558 ⑨ : 39-38
 最終回 今後の展望：「ナレッジ提供サービス」の提供に向けて
 (兼松芳之) 559 ⑩ : 29-27

国立国会図書館デジタルアーカイブポータル「PORTA」を公開しました	560 ⑪ : 30
国立国会図書館のホームページをリニューアルしました	554 ⑤ : 26
子ども霞が関見学デーのお知らせ	555 ⑥ : 25
「子どものためのこどもの日おたのしみ会」開催のお知らせ	553 ④ : 24
「子どものための春休みおたのしみ会」開催のお知らせ	551 ② : 33
新連載がはじまります テーマは主題情報提供サービス	552 ③ : 36
第9回図書館総合展に出展します	558 ⑨ : 31
第11回資料保存研修のご案内	554 ⑤ : 29
第18回保存フォーラム マイクロフィルムを長期保存するために一劣化の仕組みとその対策	556 ⑦ : 25
調査及び立法考査局の刊行物のご案内	553 ④ : 22-23
帝国議会会議録検索システムにデータを追加しました	554 ⑤ : 27
電子展示会「近代日本人の肖像」に128人の肖像を追加しました	552 ③ : 36
電子展示会「写真の中の明治・大正一国立国会図書館所蔵写真帳から一東京編」の提供開始	557 ⑧ : 31
『日本全国書誌』冊子体の終刊および贈呈の終了について	553 ④ : 25/554 ⑤ : 28/556 ⑦ : 24
「日本法令索引〔明治前期編〕」当館ホームページで提供	550 ① : 31-30
年末年始のサービス休止について	560 ⑪ : 32/561 ⑫ : 31
平成19年度アジア情報研修「中国の学術情報を入手する」	558 ⑨ : 32
平成19年度国立国会図書館職員採用試験の実施について	552 ③ : 20-23
平成19年度児童文学連続講座―国際子ども図書館所蔵資料を使って	556 ⑦ : 24
平成19年度レファレンス研修	560 ⑪ : 29
本誌アンケートにご協力をお願いします	554 ⑤ : 32/555 ⑥ : 25
メタデータ基準の公表と意見募集のお知らせ	558 ⑨ : 31

国立国会図書館の編集・刊行物

J-BISC DVD版 (2007)	561 ⑫ : 30
NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録 2006年2号～2007年1号	550 ① : 26-27/556 ⑦ : 19
外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第230号～第233号	550 ① : 27/552 ③ : 33-34/556 ⑦ : 20/559 ⑩ : 10
カレントアウェアネス 291号～294号	552 ③ : 33/556 ⑦ : 19/558 ⑨ : 30/561 ⑫ : 31
国立国会図書館絵はがき 資料編・建物編	555 ⑥ : 24
国立国会図書館の編集・刊行物 入手案内	551② : 別刷8頁
参考書誌研究 第66号～第67号	553 ④ : 14/560 ⑪ : 25
全国書誌通信 第126号～第127号	552 ③ : 33/555 ⑥ : 24
平成18年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「絵本の愉しみーイギリス絵本の伝統に学ぶー」	560 ⑪ : 25
レファレンス 第671号～第682号	毎号

平成19年度国際子ども図書館連絡会議の開催	557 ⑧ : 28
平成19年度「国立国会図書館データベースフォーラム」	561 ⑫ : 28
平成19年度児童文学連続講座—国際子ども図書館所蔵資料を使って—	561 ⑫ : 28-29
平成19年度第1回中央館・支部図書館協議会の終了について	559 ⑩ : 10
平成19年度都道府県および政令指定都市議会事務局図書室職員等への研修	561 ⑫ : 28

〈お知らせ〉・各種案内記事

JiBOOKSのサービス終了について	550 ① : 29
NACSIS-ILL経由・総合目録ネットワーク経由の複写・貸出しの申込中止について	550 ① : 29/551② : 33/552 ③ : 35
NDL-OPACから近代デジタルライブラリーをご覧いただけるようになりました	560 ⑪ : 31
NDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)に『雑誌記事索引 科学技術編』 週及データ追加	552 ③ : 35
NDL-OPACに音楽・映像資料データ約41万件を追加	559 ⑩ : 12
アジア言語OPACでペルシア語図書の書誌情報が検索可能となりました	553 ④ : 24
絵本ギャラリー【モダニズムの絵本 日常の中の芸術】の提供を開始	554 ⑤ : 32
関西館の新サービス	551 ② : 30-32
関西館総合閲覧室リニューアルのお知らせ	551 ② : 30
アジア情報室の新しいサービスのご案内	551 ② : 31
関西館における電子情報提供サービスの改善について	551 ② : 32
関西館のマークができました	561 ⑫ : 31
「企業・団体リスト情報」当館ホームページで提供開始	559 ⑩ : 15-14
近代デジタルライブラリー、大正期刊行図書を提供開始	555 ⑥ : 28
国際子ども図書館学校図書館セット貸出し「ヨーロッパセット」(小学校低学年向/小学校高学年向)の貸出開始について	561 ⑫ : 32
国際子ども図書館講演会「多文化社会における児童書・児童サービス」のお知らせ	555 ⑥ : 27
国際子ども図書館展示会「大空を見上げたら—太陽・月・星の本」関連イベントのお知らせ	550 ① : 38
国際子ども図書館展示会「大空を見上げたら—太陽・月・星の本」関連講演会のお知らせ	552 ③ : 34/556 ⑦ : 23
国際子ども図書館展示会「チェコへの扉—子どもの本の世界」開催について	561 ⑫ : 33-32
国際子ども図書館で<星座早見盤を作ろう>	555 ⑥ : 27
国際子ども図書館展示会「ゆめいろのパレットⅢ—野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」開催	557 ⑧ : 29
国際子ども図書館展示会「ゆめいろのパレットⅢ—野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」関連講演会のお知らせ	558 ⑨ : 33
国際子ども図書館夏休み催物「科学あそび」ふしぎな動きを楽しもう～ころがるマユと飛ぶタネ作り	555 ⑥ : 26
国立国会図書館データベースフォーラム開催のご案内	556⑦ : 20/557⑧ : 30

(主題情報部科学技術・経済課) 561 ⑫ : 24-25

電子情報環境下における新しい図書館サービス—東京本館電子情報提供サービスのリニューアル—
(主題情報部参考企画課) 551 ② : 1-5

平成18年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会

(総務部支部図書館・協力課) 551 ② : 24

平成18年度書誌調整連絡会議を終えて

(書誌部書誌調整課) 552 ③ : 14-18

平成18年度都道府県および政令指定都市議会事務局図書室職員等を対象とした研修について

(総務部支部図書館・協力課) 550 ① : 24

平成18年度日本研究情報専門家研修を開催して

(関西館事業部図書館協力課) 551 ② : 22-23

平成18年度日本古典籍講習会

(関西館事業部図書館協力課) 552 ③ : 24

平成18年度レファレンス研修

(関西館図書館協力課) 554 ⑤ : 9

平成19年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会について

(総務部支部図書館・協力課) 557 ⑧ : 14-15

平成19年度図書館員のための利用ガイダンスの開催

(関西館図書館協力課) 558 ⑨ : 19

平成19年度の図書館員を対象とする研修計画について

(関西館図書館協力課) 554 ⑤ : 14-15

ミシガン大学ICPSR電子情報管理官ナンシー・マクガヴァン氏招へいの概要

(総務部企画課電子情報企画室) 553 ④ : 18-19

満川亀太郎関係文書

(今津敏晃) 557 ⑧ : 16-19

NDL news 当館の最近の動き

アジア学会 (AAS)・東亜図書館協会 (CEAL) 2007年年次総会および北米日本研究資料調整協議会 (NCC) 会議

554 ⑤ : 23

カリフォルニア大学バークレー校附属C.V.スター東アジア図書館開館と記念シンポジウム

561 ⑫ : 29

韓国国立中央図書館主催「海外韓国学司書ワークショップ」参加

550 ① : 27

韓国国会図書館との第4回業務交流の終了について

552 ③ : 32

「国立国会図書館データベースフォーラム」の終了

550 ① : 28

子ども霞が関見学デー

558 ⑨ : 28

政策セミナーの開催

560 ⑪ : 26

第2回国際電子図書館会議

551 ② : 29

第8回CO-EXIST-SEA (東南アジア科学技術情報流通プログラム) ワークショップ

550 ① : 28

第9回図書館総合展

561 ⑫ : 28

第11回資料保存研修の終了

558 ⑨ : 27-28

第15回オーストラリア日本研究学会大会

557 ⑧ : 29

第32回ISSNセンター長会議

560 ⑪ : 26

第93回全国図書館大会および当館関連行事

561 ⑫ : 29

日本資料専門家欧州会議 (EAJRS) 第18回年次大会

560 ⑪ : 26

「東アジア現代史とアメリカNARA所蔵資料」学術会議

550 ① : 27-28

憲政資料室の公開資料から	(主題情報部政治史料課)	560 ⑪	: 20-21
国際交換の再構築	(収集部外国資料課)	557 ⑧	: 1- 4
国際政策セミナー「人口減少社会の外国人問題」(バルバラ・ヨン氏)	(調査及び立法考査局調査企画課)	550 ①	: 20-23
国内外の図書館の「いま」を伝える『カレントアウェアネス・ポータル』1周年	(関西館図書館協力課)	556 ⑦	: 12-17
『国立国会図書館月報』読者アンケート結果報告	(総務部総務課)	561 ⑫	: 26-27
国立国会図書館年報(平成18年度)から—統計を中心に その1—		558 ⑨	: 37-34
国立国会図書館年報(平成18年度)から—統計を中心に その2—		559 ⑩	: 26-22
国立国会図書館の新しいサービス像—第8回図書館総合展—	(総務部総務課)	551 ②	: 6-11
国立国会図書館の活動評価—平成18年度の評価結果と新目標・基準—	(総務部企画課)	556 ⑦	: 37-26
コラム 世界の国立図書館にみる評価—パフォーマンス指標を中心に—	(総務部企画課)	556 ⑦	: 27-26
国立国会図書館の平成19年度予算について	(総務部会計課)	553 ④	: 16-17
国立国会図書館法の一部改正について(解説)	(総務部総務課)	554 ⑤	: 16
就任挨拶 知識は我らを豊かにする	(長尾真)	554 ⑤	: 1- 2
重要文化財指定資料紹介『宗家文書』(『対馬宗家倭館関係資料』)	(主題情報部古典籍課)	559 ⑩	: 6- 7
常設展示の“これまで”と“これから” 常設展示150回を記念して	(主題情報部参考企画課)	560 ⑪	: 17-19
新指定貴重書について—第39回貴重書指定委員会—	(貴重書等指定委員会)	557 ⑧	: 8-12
新年のごあいさつ	(生原至剛)	550 ①	: 1- 2
第3回レファレンス共同データベース事業参加館フォーラム	(関西館図書館協力課)	555 ⑥	: 17-19
第11回韓国国立中央図書館との業務交流—電子情報の収集・提供・保存	(総務部支部図書館・協力課)	559 ⑩	: 1- 5
第14回総合目録ネットワーク参加館フォーラム	(関西館図書館協力課)	555 ⑥	: 16
第15回アジア・オセアニア地域国立図書館長会議	(内海啓也)	557 ⑧	: 5- 7
第15回納本制度審議会および第6回納本制度審議会代償金部会の開催について	(納本制度審議会事務局)	558 ⑨	: 20-21
第18回保存フォーラム報告「マイクロフィルムを長期保存するために—劣化の仕組みとその対策」	(収集部資料保存課)	560 ⑪	: 22
第26回中国国家図書館との業務交流「ウェブサイトを通じた図書館サービス」	(総務部支部図書館・協力課)	551 ②	: 13-21
第36回日本法令沿革索引審議会の開催	(調査及び立法考査局)	554 ⑤	: 8
第47回科学技術関係資料整備審議会の開催(主題情報部科学技術・経済課)		553 ④	: 7- 9
中国国家図書館で過ごした3か月～中国での在外研究を終えて～	(清水扶美子)	558 ⑨	: 22-26
デジタルアーカイブの現状と課題—第48回科学技術関係資料整備審議会の開催—			

- プランゲ文庫収集事業の現状—メリーランド大学のメディア変換作業を中心に—
 (主題情報部政治史料課) 560 ⑪ : 1-2
- プランゲ文庫児童書マイクロ化プロジェクト現地報告—カラーマイクロ作製の工程—
 (主題情報部政治史料課) 560 ⑪ : 3-9
- カレッジパークの空に—米国駐在員現地報告— (加藤祐平) 560 ⑪ : 10-11
- メリーランド大学図書館長チャールズ・ラウリー氏と同大学プランゲ文庫室長坂口英子氏の講演から
 (主題情報部参考企画課) 560 ⑪ : 12-13
- プランゲ文庫児童書のご利用について (国際子ども図書館資料情報課) 560 ⑪ : 14-15
- 未来のための図書館 世界図書館情報会議—第73回国際図書館連盟 (IFLA) 大会**
 (国立国会図書館IFLA ダーバン派遣団) 561 ⑫ : 1-22
- 第34回国立図書館長会議 (CDNL) 電子図書館に向けての国立図書館の連携
 (長尾真) 561 ⑫ : 4-7
- 議会図書館分科会 議会図書館と調査サービスにおける革新と創造性
 (山口広文) 561 ⑫ : 8-10
- 資料保存コア活動、資料保存分科会関連会議 共通の悩みに、固有の問題に、知恵を出し合う
 (小林直子) 561 ⑫ : 11-14
- 書誌分科会とデジタルアーカイブに関するセッション デジタル時代の全国書誌へ
 (中井万知子) 561 ⑫ : 15-17
- 児童・ヤングアダルト図書館分科会 多様性を包み込むサービスをめざして
 (佐藤尚子) 561 ⑫ : 18-20
- ユネスコ・セッション 知識社会におけるユネスコとIFLAの協力
 (藤巻正人) 561 ⑫ : 21
- 南アフリカ点描 561 ⑫ : 10、14、17、22

一般記事 (太字は巻頭記事)

- 2007年全米州議会協議会年次大会に出席して (武田美智代) 561 ⑫ : 41-38
- APLAP (アジア太平洋議会図書館長協会) 第9回ウェリントン大会**
 (梅田久枝、岩澤聡) 553 ④ : 1-6
- ISO/TC46最新動向—2007年スペイン会議から (徳原直子) 559 ⑩ : 21-16
- 新たな一歩を踏み出す関西館—草創期から飛躍・成長期へ—** (関西館) 556 ⑦ : 1-10
- イギリスの図書館におけるビジネス支援サービス—英国を訪問して—
 (長崎理絵) 556 ⑦ : 46-42
- 生まれ変わった総合閲覧室—関西館総合閲覧室再配置を実施して—
 (関西館資料部文献提供課) 552 ③ : 25-29
- エジプト・トルコの出版事情と日本研究事情—出張報告 (邊見由起子) 557 ⑧ : 20-22
- オーストラリア国立図書館長ジャン・フラートン氏招へいの概要
 (総務部支部図書館・協力課) 554 ⑤ : 10-11
- オランダ王立図書館職員ディルク・タン氏招へいの概要
 (総務部支部図書館・協力課) 554 ⑤ : 12-13
- 韓国国立中央図書館との第10回業務交流
 (国立国会図書館業務交流代表団) 550 ① : 14-19
- 韓国国会図書館との業務交流 (第4回) (中川秀空、田中敏) 555 ⑥ : 11-15

『国立国会図書館月報』 年間索引
—平成19年（2007） 1月号～12月号 [No.550～No.561]—

凡 例

項目別に配列し、各項目の中には、論題・記事名の数字順、アルファベット順、次いで50音順である。ただし、連載記事は原則として掲載順に配列した。

特集はあるテーマについてまとめて掲載している形式を含み、特集名ゴシックで表した。

(記載例)

第36回日本法令沿革索引審議会の開催	（調査及び立法考査局）	554	⑤	：	8
↓	↓	↓	↓	↓	↓
記事名	執筆者名	掲載号	掲載月	頁	

項目一覧

特集記事……………	51	知識をカタチに—国立国会図書館が
一般記事……………	50	目指す「主題情報提供サービス」…
NDL news 当館の最近の動き……………	48	ビジュアル国立国会図書館博物館…
<お知らせ> 各種案内記事……………	47	本屋にない本……………
国立国会図書館の編集・刊行物……………	46	館内スコープ……………
稀本あれこれ……………	45	常設展示のお知らせ……………
本を魅せる 常設展示案内……………	45	法規等の制定・改正……………
関西館の資料紹介……………	45	おもな人事……………
		遠客近客……………
		42

特集記事

国立国会図書館における国際的な保存協力活動 —平成18年度の活動から—

554 ⑤ : 3- 7

ネパールとの資料保存協力の現況—ネパール出張報告— (井坂清信) 554 ⑤ : 3- 5

国際図書館連盟資料保存コア活動 (IFLA/PAC) アジア・オセアニア地域センター長
会議および日中韓資料保存会議—アジアにおける資料保存ネットワークの強化に
向けて (齋藤友紀子、小林直子) 554 ⑤ : 6- 7

国立国会図書館の書庫—貴重な文化的財産を後世に伝える— 558 ⑨ : 1-17

特集 遠隔利用者から見た国立国会図書館 (総務部企画課) 550 ① : 3-12

特集 国立国会図書館の電子情報発信 552 ③ : 1-13

国立国会図書館データベースフォーラムの開催 (総務部企画課) 552 ③ : 1- 2

国立国会図書館の電子図書館サービス (植月献二) 552 ③ : 2- 5

国立国会図書館データベースフォーラムに参加して 552 ③ : 6- 9

フォーラムで紹介したデータベース一覧 552 ③ : 13-10

特集 全国書誌 (書誌部書誌調整課) 555 ⑥ : 1-10

特集 プランゲ文庫 560 ⑪ : 1-15

本を魅せる 常設展示案内 (27)



第151回常設展示 本の中の「おりがみ」

平成19年12月20日～平成20年 2月19日

第151回常設展示では、当館所蔵の雑誌や図書を通して、折り紙の多彩な世界をお楽しみください。

第1章では、日本の折り紙の歴史を紹介します。最古の折り紙遊びの本と言われる、『秘伝千羽鶴折形』（寛政9年（1797）刊。展示は複製版）では、1枚の紙から作られる親子や夫婦のように並んだ鶴がなんとも微笑ましく、その完成度の高さには驚かされます。儀礼に用いる折り紙の見本がついた『小笠原流諸式折紙標本』（平岡善吉著 坂上朝日館 明治44年（1911））や、1枚の紙から作られているとは思えない複雑な折り紙作品集など、見て楽しい資料を選びました。

第2章では、伝統的なイメージとは違う、現代の折り紙の意外な一面をご紹介します。宇宙開発計画用に考案され、地図の収納にも活用されているミウラ折りや、多面体や黄金比など数学の理解のために折り紙を使う方法、また、現代美術作品のような折り紙も生まれています。折り紙の無限の可能性を感じていただけたらと思います。

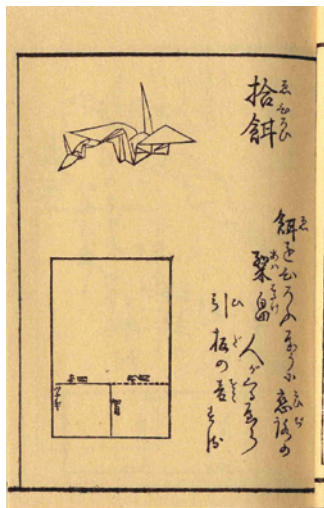
さて、“origami”という言葉があるように、日本の折り紙文化は海外にも広まっています。しかし、古代中国で紙が発明されて以来、長い間に折り紙文化が発達したのは日本だけではありません。第3章では、スペインや韓国の伝統的な折り紙を紹介した資料や、“origami”を通じた国際交流の現場など、国際的な視野で見た折り紙に関する資料をご紹介します。「日本文化の「折り紙」

はすでに国際語です」（『外交フォーラム』13巻4号、2000.4、pp. 10-11）には、スペインの伝統的な折り方が実は日本の折り紙に影響されているのではないかという興味深い説も紹介されています。

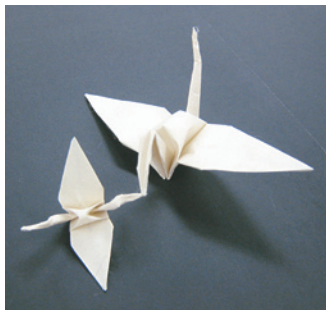
この展示に向けて様々な折り紙の本を調べた私たちは、資料選定だけでは満足できなくなってしまいました。実際に折り紙をやってみたい！という衝動に駆られ、出来上がったのが左の写真です。

出来栄はいかがでしょうか。

（青山 真紀・高橋 三紗・日向 智昭）



魯編庵義道一円【ほか】著
『秘伝千羽鶴折形』日本折紙協会、
1991（寛政9年刊の複製）
＜当館請求記号 W162-56＞



国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

電話 03 (3827) 2053

利用案内 電話 03 (3827) 2069 (音声・FAXサービス)

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として内外の児童書とその関連資料に関する図書館サービスを国際的な連携のもとに行います。

利用できる人 どなたでも利用できます(ただし資料室は満18歳以上の方)。

資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は除く)、
年末年始(31頁参照)、資料整理休館日(第3水曜日)

休室日 休館日以外に次の日が休室となります。

2階第一、第二資料室：日曜日

3階本のミュージアム：展示会準備期間

支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

電話 03 (3942) 0122 (代表)

東洋学の発展を目的とする専門図書館。

アジア全般にわたる資料・研究書を所蔵しています。

国立国会図書館月報

平成19年12月号 (No.561)

発行所 国立国会図書館

平成19年12月20日発行 定価525円
(本体500円)

編集責任者 矢部 明 宏

発売 社団法人日本図書館協会

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03 (3581) 2331 (代表)

電話 03 (3523) 0812

FAX 03 (3523) 0842

FAX 03 (3597) 5617

E-mail hanbai@jla.or.jp

E-mail geppo@ndl.go.jp

印刷所 株式会社丸井工文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp> —「刊行物」—「国立国会図書館月報」)でご覧いただけます。

表紙 中性紙使用

本文 中性再生紙使用

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No. 561 December 2007

CONTENTS

Asanuma Inejiro dokusho noto - shiso no haha (Random notes on rare books, 478)

- 1 **Libraries for the future: World Library and Information Congress - Participating in the 73rd IFLA General Conference**
- 4 34th Conference of Directors of National Libraries: Cooperation among national libraries for digital library / Makoto Nagao
- 8 Library and Research Services for Parliaments Section: Innovation and originality in parliament libraries and research services / Hirofumi Yamaguchi
- 11 Meetings related to the Preservation and Conservation Section: Use intelligence to solve common challenges and inherent problems / Naoko Kobayashi
- 15 Toward national bibliography in the digital age - Bibliography Section and Digital Archiving and Preservation Update Session / Machiko Nakai
- 18 Toward services encompassing diversity: Libraries for Children and Young Adults Section / Naoko Sato
- 21 UNESCO Session: Cooperation between UNESCO and IFLA in the knowledge-based society / Masato Fujimaki
- 10, 14, 17, 22 Sketch of the Republic of South Africa
- 24 Present situation and future issues of digital archiving - 48th meeting of the Council on Organization of Materials on Science and Technology
- 26 Results of the questionnaire on "National Diet Library Monthly Bulletin"
- 41 Reports of the National Conference of State Legislatures 2007 Annual Meeting / Michiyo Takeda

-
- 23 Tidbits of information on NDL
 - 30 Monthly official report
 - 30 Publications from NDL
 - 28 NDL news
 - 34 Books not commercially available
 - 51 Annual index to "National Diet Library Monthly Bulletin", nos. 550-561
 - 52 Origami in books (Enchanting world of books - Guide to regular exhibition, 27)

< Announcements >

- 23 Announcement of regular exhibition
- 31 Birth of the Kansai-kan's logo
- 31 Library closure at the year-end and New Year
- 32 International Library of Children's Literature's Book Set Lending Service to School Libraries: launch of the "Europe" set (suitable for junior and senior children at elementary schools)
- 33 Exhibition at the International Library of Children's Literature "Door to the Czech Republic: The World of Children's Books"

NATIONAL DIET LIBRARY
Tokyo

